144
3
104

刑法治罪法附屬要典

第二卷

三國志演義

特16
448

刑法附属要典第二卷目錄

太政官之部

二十一号	普通刑法共ニ罪名アリテ刑法施行以前所犯所斷	百五十九丁 二号
二十二号	控訴上告手續第五條中改正	百五十九丁 七号
二十三号	刑法第四百二十七條第二項ニ付テノ布告	百五十九丁 一号
二十四号	海兵ヲ設置シタル地方ニ於テハ其將校下士卒ニ司法警察ヲ行ハシム	二百三丁

司法省之部

丁十七号	軍人屬犯罪未決ノ逃走シタルニ付陸海軍衙ヨリ捕縛方依頼取計方	百六十丁
丁十八号	軍人屬ノ犯罪既決後逃走シタルニ付陸海軍衙ヨリ捕縛方依頼取計方	百六十丁
丙十号	調書ヲ作リタル司法警察官ヲ証人トシテ出廷セシムル事	百六十丁
二十号	富籤賣買ノ牙保幇助ヲ爲シ及ヒ富籤ヲ購買シタル者處分法	二百四丁
二十七号	集會條例改正追加	二百六十六丁
二十八号	虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶檢査規則	二百七十丁
丙十号	勅奏任官華族帶勳有位ノ者禁錮以上ノ刑ヲ犯シタル時奏聞ノ事	百六十一丁
丙十号	違警罪裁判言渡謄本費用ノ事	百六十一丁
十号	新聞條例讒謗律犯者取調ノ事	百六十二丁

丁二十号	裁判傍聽ノ事	百六十四丁
丁二十四号	豫審判事ヘ內訓	百六十四丁
丙十三号	老疾收贖存留養親ノ義	百六十五丁
丙十四号	既決囚ノ逃走シタル者ニ對シテ發スル令狀ノ義	百六十五丁
丙十五号	各府縣限リ布令スル條則屆出方ノ事	百六十八丁
丙十六号	褒章ノ事	百六十八丁
外	被告事件禁錮以上ノ刑ニ該リ留置ヲ要スル者ト思料スル時心得	百六十九号
丙十七号	法律上ノ疑義伺詩訓差出方	百十七丁
丙十八号	治罪法第二百六十條ノ場合ニ付達	百六十二丁
丙十九号	內訓條例	百六十二丁

內務省之部

二十九号	刑法附則中監視旅券	百七十丁
丙二十号	犯罪ノ用ニ供シタル物件及犯罪ニ因テ得タル物件還付ノ事	二百七十八丁
丁二十号	陸軍檢閱條例第四條改正	二百七十九丁
丙二十号	重輕罪管轄	二百七十三丁
丙二十号	告發シタル官吏ヲ証人トスル事	二百七十三丁
丁三十号	護送引致費用	二百七十三丁
丙二十四号	犯罪ノ用ニ供シタル物件及犯罪ニ因リ得タル物件	二百七十四丁
丁三十四号	使丁規則改正	二百七十四丁
丙二十五号	証人鑑定人等旅費日當	二百七十五丁
	酒造稅則ニ付內訓	二百七十五丁
	府縣警部ヨリ檢事事務上ノ伺ニ付通牒	二百七十六丁
乙三十五号	囚人ヲ巡査ニ護送セシムル事	二百七十七丁
	警視廳ヘ訓示	二百七十七丁
	陸軍省之部	
	徒刑人戒役休役スル者償役廢止	
	海軍省之部	
	海軍士官懲罰則取扱手續	百九十二丁
	警視廳之部	
甲第三号	明治十四年第百三十三號達書式ノ追加	百八十七丁
	監視ニ付スル者警察署ヘ送致スル可キ者ニ付達	百八十八丁
	明治十四年第百三十三號達追加	百八十九丁
	滯國人違誡犯處分方	百八十九丁
	違警罪目改定追加	同丁
	伺指令之部	
	東京府ヨリ陸軍省ヘ伺并指令	二五
	岡山縣ヨリ陸軍省ヘ伺并指令	二六
	東海鎮守府ヨリ海軍省ヘ伺并指令	二五
	告訴告發私訴願下聞屆ノ式	二八

警視廳ヨリ内務省ヘ伺并指令 二八七丁
海軍省ヨリ太政官ヘ伺并指令 同丁
陸軍裁判所ヨリ本省ヘ伺并指令 二〇八丁

○書式之部

告訴告發人口述ヲ以テ為シタル時ノ調書式 百九十二丁
告訴告發ヲ受ケタル証書ノ式 百九十六丁
告訴告發ノ事件急速ヲ要スル時直チニ被告人勾引狀ヲ發シ又ハ訊問シタル後勾留狀ヲ發スル場合檢事ニ証憑及ヒ參考ノ事物ヲ送致スルノ式 百九十七丁
被告者ヨリ民事原告人ト為ルヘキノ申立ヲ受ケタル件其旨ヲ檢事ニ通知スル式 二百丁
被告人所在ノ地ノ豫審判事直チニ告訴告發ヲ受ケ又ハ檢事ヨリ其送致ヲ受ケ其事件急速ヲ要スル時被告人ノ訊問又ハ檢証處分ヲ為シタル後証憑等ヲ犯罪ノ地ノ豫審判事ニ送致スル式 二百一丁
被告人調書之式 二百十一丁
被告事件罪トナラサル時免訴言渡書式 二百十四丁
公訴ノ期滿免除トナリタル時免訴言渡式 二百十五丁
確定裁判ヲ經タル時免訴言渡式 二百十六丁
大赦アリタル時免訴言渡式 二百十八丁
法律ニ於テ罪ヲ全免スル時為ス免訴言渡式 二百十九丁
豫審終結ヲ裁判所長ニ報告スル書式 二百二十二丁
東京鎮臺ヨリ陸軍省ヘ伺并指令 二一八丁
内務省ヨリ死体解剖ノ儀ニ付太政官ヘ伺并指令 百十九丁
陸軍裁判所ヨリ本省ヘ上申并指令 百九十一丁

罰金取消言渡書式 二四七丁
參考人調書式 二四八丁
宣誓陳述ヲ肯セサル罰金言渡式 二〇五丁
証人調書ノ式 二五二丁
証人豫審判事ニ同行ヲ肯セサル調書式 二五六丁
証人旅費日當要求言渡式 二五七丁
鑑定書式 二五八丁
豫審判事ヨリ檢事ヘ通知書 二六〇丁
拘留狀ヲ解ク時ノ言渡式 二六一丁
保釋金沒入保釋取消式 二六二丁
豫審中保釋ノ言渡ノ取消式 二六三丁
責付ニ付親屬故舊呼出狀式 二六三丁
檢事ヘ照會書式 二八二丁
陳述書言渡書謄本ノ式 同丁
書類ヲ送達スルニ付テノ添書ノ式 二八三丁
豫審判事ノ言渡ヲ取消ス判決書式 二八七丁
豫審報告書式 二八九丁
故障ト共ニ判決スル書式 二九〇丁
豫審上訴判決書ノ式 二九二丁
檢事ノ起訴ヲ判決スル書式 二九五丁
訴訟關係人到着屆ノ式 二九六丁
豫審班數表ノ式 二九七丁
檢事ニ送致スル文書式 二九八丁
參考人呼出狀書式 二九九丁

未決ノ豫審事件報告書式　二百二十二丁
管轄違ノ申立ヲ棄却セラレタル二付故障ヲ爲シタル時會議局ニ於テ之ヲ判決スル書式　二百二十三丁
法律ニ背キ命令狀ヲ發シタルニ付キ故障ヲ爲シタル時會議局ニ於テ判決スル式　二百二十四丁
忌避ノ申立ヲ認可又ハ棄却スルヿヲ該書紙尾ニ記載スル書式　二百二十七丁
越權ノ處分アルニ付キ故障ヲ爲シタルキ會議局ニ於テ判決スル書式　二百二十八丁
忌避ノ故障ニ付會議局ノ判決書式　二百二十九丁
豫審判事自ラ會議局ニ回避ノ申立ヲ爲シタル時同局ニテ之ヲ判決スル式　二百三十一丁
書記ヨリ對手人ヘ故障アリタルヿヲ通知スル書式　二百三十三丁
囑託通知式及言渡書式　二百三十二丁
被告人令狀ニ應スルヿ能ハサルトキ被告人所在ノ地ノ遠審判事ニ訊問ノヿヲ囑託スル文書式
責付受書ノ式　二百三十三丁
通知錄式　二百三十三丁
密室監禁錄ノ式　二百三十五丁
監倉長ヘ通知スル式　二百三十六丁
對質調書ノ式　二百三十七丁
臨檢搜索囑託式　二百四十
驛遞其他受取ニ付テノ掛合書式　二百四十一丁
呼出錄ノ式　二百四十三丁
在營ノ軍人軍屬ヲ証人トシテ呼出スヒノ書式　二百四十五丁
証人呼出ニ應セサル時罰金言渡書式　二百四十六丁
保釋証書ノ式　三百一丁
裁判所ノ管轄地內ニ住シ且充分ノ資力アル者ヨリ差出ス保証ノ式　三百二丁
公判件數錄ノ式　三百三丁
公判班數式　三百四丁
訊問辨論ノ傍聽ヲ禁スル式　三百八丁
辨護届出ノ式　三百七丁

○本典第八十九葉及ヒ第三十七葉參看

○太政官布告

○第二十號　明治十五年四月八日

舊軍律及ヒ普通刑法共ニ罪名アリテ所犯刑法施行以前ニ係ル者ハ本年(一月)第四號布告ノ例ニ準シ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷ス可シ

但罰金科料ニ該ル者ハ明治十四年(十二月)第八十一號布告ニ依ルヘシ

○第二十一號　十五年四月二十六日

明治十年(二月)第十九號布告控訴上告手續第五條中三ケ月トアルハ總テ二ケ月ト改正ス

○第二十二號　十五年四月二十九日

刑法第四百二十七條第三項夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者ト有之候處軍人制服ヲ着用乘馬シタル者ハ右

ノ限ニ無之候條此旨相達候事

○司法省達

○丁第十七號　十五年三月二十日

軍人軍属犯罪未決ノ逃走シタルニ付陸海軍衙ヨリ捕縛方依頼有之候節ハ本年本省丁第十四號達ニ依リ捕縛方取計フ可シ此旨相達候事

○丁第十八號　十五年三月二十日

軍人軍属ノ犯罪既決後逃走シタルニ付陸海軍衙ヨリ捕縛方依頼有之候節ハ本年本省丙第六號達ニ依リ捕縛方取計フ可シ此旨相達候事

○丙第十號　十五年三月二十二日

治罪法第二百八十五條ニ從ヒ調書ヲ作リタル司法警察官ヲ証人トスルトキハ書記局ヨリ報知書ヲ以テ出庭セシ

○本典第百四十七葉參看

○本典第百四十六葉參看

○治罪法第二百八十五條調書ヲ作リタル司法警察官其他訴訟關係人ヨリ証人トシテ之ヲ呼出シ又ハ裁判所ノ職權ヲ以テ之ヲ呼出スヿヲ得

○本典四十六葉參看

メ宣誓セシムルニ及ハス書記ノ順席ニ着テ陳述セシム可シ此旨相達候事

○丙第十一號　十五年三月廿七日

今般太政官ヨリ別紙ノ通リ御達相成候條此旨相達候事

司法省

勅任官禁錮ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シ及ヒ奏任官華族帶勲有位ノ者禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シタル時ハ當該檢察官ヨリ司法卿ニ具狀シ司法卿其事由ヲ奏聞シテ處分スヘシ但シ現行犯罪ニ係ル者ハ處分シテ後ニ奏聞スルヿヲ得此旨相達候事

明治十五年三月廿二日　太政大臣三條實美

○丙第十二號　十五年三月廿七日

明治十四年(十二月)當省甲第七號布達裁判言渡ノ謄本又

ハ其扳書ヲ下付スル費用ハ當分達警罪ニ限リ徴収セサル樣取計ヘシ此旨相達候事

十五年三月廿九日

○丁第十九號

明治十一年當省丁第二十七號達新聞條例及ヒ讒謗律犯者表雛形別紙之通改正候條右ニ照準シ年両度ニ取調前季(自一月至六月)分ハ七月十五日限リ後季(自七月至十二月)分ハ翌年一月十五日限リ可差出尤犯者無之向ハ其段可届出此旨相達候事

但シ管轄治安裁判所ノ分ハ本廳ヘ取纏メ可差出事

凡例

一本表ハ集會條例新聞條例ヲ以テ處斷シ及ヒ新聞紙雜誌雜報ノ記事ヨリ起リ或ハ公然演説ヲ爲シタル犯者ニシテ刑法ノ條目ニ從テ處斷シタル者ヲ記入ス

一所犯新法頒布以前ニ在テ新舊ノ法ヲ比照シ舊法ニ從テ處斷シタル者ハ本表記載ノ例ニ從ヒ記入スヘシ

一數罪俱發シ一ノ重キヲ以テ論シ其餘罪ノ輕クシテ論セサル者モ本表記載ノ例ニ準シ一々記載スヘシ

一一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若クハ等シクシテ論セス或ハ重クシテ更ニ論シタル者ハ各々本表刑名ノ區畫中ニ記載シタル例ニ倣ヒ記入ス可シ

一上告ニ係ル者ハ其上告ニ拘ハラス原裁判所ノ刑名ヲ記入ス但シ大審院ノ表ハ此例ニアラス

一公然ノ演説上ヨリ起リ刑法ノ條目ニ從テ處斷シタル者ハ本表新聞名ノ欄内ヘ其社名ヲ書シ若シ社名アラサル者ハ其理由ヲ記入ス可シ

雖形略ス

○丁第二十號　十五年三月二十九日

裁判傍聽ノ義ハ官民ヲ擇ハス渾テ傍聽席ヘ相廻シ可申此旨相達候事

但外國人ニシテ公然ノ照會ヲ經タル者ハ此限ニ非ス

○丁第二十四號　十五年四月十二日

左之通豫審判事ニ及內訓候條爲心得此段相達候事

輕罪裁判所豫審判事

治罪法第百三十四條ノ場合ニ於テ豫審判事ヨリ巡査ヲシテ令狀ヲ他管ニ帶行セシムルハ被告事件殊ニ急遽ヲ要スル時ニ限リ輒ク其處分ヲ爲ス可キ者ニアラス又第百三十五條ノ場合ニ於テ豫審判事ヨリ人相書ヲ發シ捜査及ヒ逮捕ヲ爲スヘキ事ヲ請求スル者ハ專ラ重大ノ罪

○治罪法第百三十四條豫審判事ハ被告人他ノ管轄地內ニ潛匿シタルヿヲ知リ又ハ潛匿シタリト思料シタル場合ニ於テ被告事件急速ヲ要スル時ハ巡査ニ令狀ヲ帶行セシムルヿヲ得

巡査ハ被告人所在ノ地ノ豫審判事捕事又ハ司法警察官ニ令狀ヲ示シテ即時ニ執ヲ犯シタル被告人ニ對シテ發スル者ニ有之被告人所在ノ地ヲ覺知スルヿ能ハサル時ハ罪ノ輕重ヲ問ハス悉ク人相書ヲ發スル者ニアラサルナリ此等ハ兼テ注意アルヘキ事ナレトモ尙ホ誤解無之樣爲念此段及內諭候也

明治十五年四月十二日　司法卿大木喬任

○丙第十三號　十五年四月十四日

軍人軍屬役限內老疾收贖及ヒ存留養親ノ義別紙ノ通陸軍省ヨリ太政官ヘ相伺朱書ノ通御裁令相成候條常人ニ付テモ右ニ照準處分スヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

軍人軍屬役限內老疾收贖及存留養親等ノ義ニ付伺

陸軍々人軍屬ノ犯罪舊軍律ニ依リ流刑徒刑等ニ處スル者其刑期中ハ總テ普通懲役人同樣ノ取扱ニテ即チ役限

行ヲ求ム可シ

同第百卅五條豫審判事ハ被告人所在ノ地ヲ覺知スルヿ能ハサル時ハ各控訴裁判所檢事長ニ被告人ノ人相書ヲ送致シ捜査及ヒ逮捕ヲ爲ス可キヿヲ請求スルヲ得

○第四十八

内老疾収贖及存留養親等願出候者ハ常律ニ照シ差許來候處新刑法ニ於テハ右等廢止セラレ候得共客年十二月以前既ニ願出調査中ニ係ル者ハ勿論其未タ願出サル者及新律實施ノ後陸軍刑法第二條新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從ヒ舊法ニ處シタル者ハ自今以後ト雖モ總テ舊律ニ照シ處分致候方至當ト相考候間何分ノ御指揮有之度此段相伺候也

明治十五年二月十日　陸軍卿大山巖

太政大臣三條實美殿

（朱書）

伺之通

○丙第十四號　十五年四月十七日

既決囚ノ逃走シタル者ニ對シテ發スル令狀ノ義ニ付テハ昨明治十四年丙第二十號ヲ以テ相達置候處始審裁判所所在ノ地ヲ除クノ外ハ現ニ其刑ノ執行ヲ爲ス地ノ警部ニ於テ令狀ヲ發スル儀ト可相心得此旨更ニ相達候事

○丙第十五號　十五年四月十七日

各府縣限リ布令スル條則屆出方ノ義明治六年第六十二號同八年第三十號ヲ以テ相達置候處自今其府縣ヨリ管内始審裁判所治安裁判所及ヒ其地ヲ管轄スル控訴裁判所ニ通牒シ且ツ其年一月ヨリ三月迄ノ分四月廿日限取纏メ以下之ニ準ヒ一ケ年四度ニ取纏メ當省ヘ可屆出候條此旨更ニ相達候事

○丙第十六號　十五年四月十七日

從前褒章ノ義ハ條例第四條ニ依リ行政官ニ於テ沒收致來候處右ハ本年三月當省丙第九號達ニ照準シ處分スヘ

○第百四十八葉參看

シ此旨相達候事

十五年四月十七日

○丁第二十七號

各府縣限リ布令スル條例屆出方ノ義明治八年第三十號同九年第五十六號ヲ以テ相達置候處今般丙第十五號ノ通府縣ヘ相達候ニ付自今當省ヘ屆出ニ不及又始審裁判所ヨリハ本管控訴裁判所ヘモ屆出ニ不及候條此旨更ニ相達候事

○號外　十五年四月十八日

被告事件禁錮以上ノ刑ニ該リ輕罪裁判所又ハ重罪裁判所ニ移ス可キ場合ニ於テ留置ヲ要スル者ト思料スル時ハ豫審終結前收監狀ヲ發スル儀ト心得可シ此旨及內訓候也

○丙第十七號　十五年四月二十五日

從來法律上ノ疑義伺幷ニ請訓等數十條ヲ一通ニシテ差出シ又ハ箇條ヲ設ケスシテ數十項ノ條件ヲ列記スル者モ有之取調方不都合尠ナカラス候ニ付今後ハ總テ箇條ヲ設ケ十ケ條以上ニ渉ル件ハ各通ニシテ差出ス可シ此旨及內訓候事

○內務省達

○乙第十九號

刑法附則中監視票旅券共別紙書式ノ通相定候條各廳ニ於テ調製シ下附ス可シ此旨相達候事

但紙質堅緻ナルモノヲ用フヘシ

本典第一葉以下參看

監視票

何府何縣何郡何區何町何村何番地住又ハ寄留何某
何年何月何日宣告
何年何月何日滿期
族籍
何年何月何日起
何年何月何日滿
何年何月生 某

刑名刑期

監視ノ期限間左ノ條件ヲ遵守スヘシ

一毎月二度所轄ノ警察署ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ此票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ己ムヲヲ得サル事故アリテ警察署ニ到ルヲ能ハサルトキハ其事由ヲ屆出ヘシ

二酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲヲ許サス

三事故アリテ其住居ヲ轉移セントスルトキハ警察署ニ申請シ許可ヲ受クヘシ

四擅ニ他ノ地方ニ旅行スルヲヲ許サス若シ已ムヲヲ得サル事故アルトキハ其事由ヲ警察署ニ具申シ許可ヲ受クヘシ

右刑法附則第二十六條ニ因リ此票ヲ下付スル者也

明治何年何月何日

署印

東京ニテハ何警察署
警察使何某印
府縣ニテハ何府縣何警察署
警部何某印

認印表

	初年	二年	三年	四年	五年
	十五日以前 / 十五日以後	十五日以前 / 十五日以後	十五日以前 / 十五日以後	十五日以前 / 十五日以後	十五日以前 / 十五日以後
一月	何日出頭 印	旅行中			
二月	疾病ニ付不參				
三月					
四月					
五月					
六月					
七月					
八月					
九月					
十月					
十一月					
十二月					

旅券

何年何月何日宣告
何年何月何日滿期
何年何月何日起
何年何月何日滿

何府何縣何區何郡何町何村何番地住又ハ寄留何某
子弟妻女同居

族籍

何
何年何月生
明治何年何月何年何ケ月

某

刑名刑期

監視何年何月

罪質犯數

一此者何府縣何區郡何町村何某方ヘ旅行スルヿヲ許ス
一何年何月何日本地ヲ發途ス
一先方ノ地(若シ途中滯在スルトキハ其旨ヲ記ス)ニ滯在スル日數何日間トス
一何年何月何日皈宅スルモノトス
先方ノ地(若シ途中滯在スルトキハ其旨ヲ記ス)ニ到レハ此旅券ヲ直ニ其地ノ警察署ニ出シテ官吏ノ認印ヲ受クヘキ事
旅行中天災又ハ疾病等ニヨリ已ムヿヲ得スシテ淹滯シタルトキハ其事由ヲ其地ノ警察署ニ具申シ官吏ノ証書ヲ請ヒ歸着シタルトキ若シクハ先方ノ地ニ到レハ此旅券ニ副ヘ速ニ之ヲ其警察署ニ示スヘキ事
歸着シタルトキハ此旅券ヲ直ニ還納スヘキ事
右刑法附則第三十條ニ依リ下付スル者也

明治　何年何月何日　署印

東京ニテハ何警察署警察使
府縣ニテハ何府縣何警察署警部
何　某印
某印

認印表

某警察署	何年何月何日ヨリ何年何月何日迄何府縣何(區郡)何町村(何番地何某方ニ滯在ス	印	印	印	印
、、、	、、、

旅券

何府縣何郡何村何番地住又ハ寄留何某
何區何町何番地住子弟妻女同居
族籍
何
何年何月生
某
明治何年何月何年何ヶ月

一此者監視（假出獄ヲ許サル特別監視）ニ付セラレ何地ニ於テ之ヲ執行スヘキニ付該地ヘ到ル者也

一何年何月何日本地ヲ發途スル

一何年何月何日先方ノ地ニ到ルモノトス

先方ノ地ニ到レハ直ニ其地ノ警察署ニ此旅券ヲ差出ス可キ事

但シ本文旅券ニ假出獄証票ヲ添ヘ官吏ノ監査ヲ受クヘシ

旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時滯滯シタル時ハ其事由ヲ其地ノ警察署ニ具申シ官吏ノ証書ヲ請ヒ到着ノ日此旅券ニ添ヘ警察署ニ差出ス可キ事

右刑法附則第二十五條ニ依リ下付スル者也

東京ニテハ何警察署
警察使何某印
府縣ニテハ何府縣警察署
警部何某印

明治何年何月何日
署印

特別監視票

何府縣何郡何村何番地住又ハ寄留何某
何區何町何番地住子弟妻女同居
族籍
何
何年何月生
某
明治何年何月何年何ヶ月

刑名刑期何年何月何日宣告

何年何月何日滿期

附加監視何年何年何月何日起

何年何月何日滿

假出獄何年何月何日許可

特別監視何年何月何日起

特別監視何年何月何年何月何日滿

特別監視期限間左ノ條件ヲ遵守スヘシ

一毎週間一度所轄ノ警察署ニ到リ其謹慎スルヿヲ表シ此票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受クヘシ但疾病又ハ已ムヿヲ得サル事故アリテ警察署ニ到ルヿ能ハサルトキハ其事由ヲ届出スヘシ

二酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群衆ノ場所ニ參會スルヿヲ許サス

三事故アリテ住居ヲ轉移セントスルトキハ警察署ニ申請シ許可ヲ受クヘシ但他ノ府縣ニ轉移スルヿヲ許サス

四往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルヿヲ許サス

（重罪ノ刑ニ處セラレタル者ナルトキハ左ノ一項ヲ附加ス）

自ラ財産ヲ治メ若シクハ職業ヲ營マントスルトキハ刑法附則第四十一條ニ從ヒ警察署ニ申請シ許可ヲ受クヘシ

右刑法附則第二十六條ニ因リ此票ヲ下付スル者也

東京ニテハ何警察署
警察使何某印
府縣ニテハ何府縣警察署
警部何某印

明治何年何月何日
署印

認印表

	初年	二年	三年	四年
	一週 二週 三週 四週	一週 二週 三週 四週	一週 二週 三週 四週	一週 二週 三週 四週
一月 何日出廷ス 廷不參				
二月				
三月				
四月				
五月				
六月				
七月				
八月				
九月				
十月				
十一月				
十二月				

○警視廳達

○ 十五年三月十七日

明治十四年(十二月)第百三十三號達書式左ノ通リ追加候條此旨相達候事

明治年月日時何(郡村區町)何番地何某某方ニ何々ノ犯罪アリ年月日第何號檢證調書ニ記シ(調書送付シタル後ハ)檢事ニ引渡ス爲メ警視廳第二局ヘ送(付シ)續テ被告人ヲ捜索スルニ何々ノ証憑ニ依リ何郡村區(町)何番地何某ハ該人被告ト認受ルヲ以テ巡査何某ニ命シ引致セリ

紀問

續テ被告人、、、、、、、、

捜索

同日兇行ニ供シタル兇器器具、、、、、、、、

第百二十三葉參看

決定

前條、、、、、、、

○　十五年四月十日

監視ニ付ス可キ者他管下ハ勿論管内ト雖モ其住居一里半以外ノ者監獄署ヨリ護送スル時ハ刑法附則第二十四條ニ依リ該地ノ警察署ヘ送致ス可シ此旨相達候事

第七葉參看

○甲第三號　十五年四月十二日

明治十四年十二月甲第六十號布達違警罪目左之通改定追加候條此旨布達候事

第八十五葉參看

改定

八　強テ合力ヲ申掛ケ若クハ物品ヲ押賣シ其他種々ノ所爲ヲ以テ他ニ妨ヲ爲シタル者

十八　紙屑拾ヒノ者官ノ檢印アル名札ヲ貸借シ又ハ其記名ヲ變更シ若クハ名札ヲ屑籠ニ表出セサル者

追加

十九　旅人宿ニ於テ鄕貫氏名ヲ詐稱シタル者

二十　官許ヲ得スシテ神興ノ巡行佛刹ノ開帳ヲ爲シ其他山車ヲ牽キ又ハ手踊ノ興行ヲ爲シタル者

○　十五年四月十四日

清國人違註犯處分ノ義今般外務卿達ノ旨有之ニ付明治十二年一月第五號達取消候條自今該犯者有之節ハ總テ佗ノ條約濟各國人民同樣可取扱此旨相達候事

第八十四葉參看

○　十五年四月廿四日

明治十四年十二月第百三十三號達犯罪取扱心得第廿四條左之通改正候條此旨相達候事

第二十三條　令狀執行ハ專ラ所屬巡査ヲ以テスヘシト

○監獄則第七十九條二項遺骸ヲ請フ故舊ナキ時ハ棺ニ入テ仮葬シ其上ニ氏名標ヲ建ツヘシ其標約ヲ面三寸長三尺五寸トス

同第三編第二章疾病附死亡

雖モ時宜ニ依リ各屯所詰巡査ニ命スルヿアルヘシ

但其効力ハ警視廳管内ニ止ル

○内務省ヨリ死体解剖ノ儀ニ付太政官ヘ伺并指令

在監人死亡シ遺骸下付ヲ乞フ者ナキ時ハ假葬可致義監獄則第七十九條第二項ニ明文有之候得共同則御發令前ニ醫學研究ノ爲メ解剖セント請フ者アル時ハ往年大學東校其他御指令ノ當時監獄ヲ管理シタル司法省ヘノ御達ニ從ヒ之ヲ許可相成來候處前條明文ニ依リ今后全ク其請ヲ許サヽルニ至レハ醫學上ノ進歩ヲ妨クル不少ト相考ヘ候就テハ右遺骸ノ下付ヲ乞フ者ナキ刑死ノ遺骸ノミナラス同則第三篇第二章ノ死亡者モ本人生存中解剖ヲ承諾スル者ハ之ヲ許シ又其承諾セシムルノ遑ナキモ難症ニ罹リ死亡シタルトキハ其病ノ要部ノミヲ解剖スル如キハ醫學校又ハ病院等ヨリノ請求ヲ許シ解剖后直ニ縫理シテ原骸ニ復シ成規ノ通リ埋葬取計候樣爲致度

右兩件相伺候條至急御指揮ヲ仰候也

指令

伺之趣刑死者遺骸ノ下付ヲ乞者ナキモノヽ外ハ何人ニ不拘本人情願ニアラサルモノト其遺屬者承諾ヲ得サルモノトハ解剖不相成義ト可相心得候事

○海軍裁判所ヨリ本省ヘ上申并指令

當所ヘ自首致シ來候軍人屬ノ犯罪者ハ都テ受理不致旨昨十四年一月十五日所一套第六號ヲ以テ上申ノ末四月十八日繼入第一〇一號ヲ以テ御指揮濟ニ相成居候處到底治罪法御頒布ニ相成候ヘハ裁判所理事ニ於テ受理致ス可キ者ニ有之且現今憲兵屯所警察署等ヘ自首ノ者ハ

直ニ當所ヘ送付シ來候ニ就キ從來ノ手順ヲ廢シ更ニ自首ノ者ハ直ニ受理致シ着手屆ヲ以テ處分致候儀ニ改正致シ候方往々ノ便宜ニ可有之ト存候條至急何分ノ御指令相成度此段上申仕候也

指令

上申之通

○海軍省達

海軍士官懲罰則取扱手續

第一條　此罰則ヲ犯シタル者アル時其申告ヲ爲ス者ハ犯者所屬ノ分隊長若クハ當直士官若クハ衛兵士官ヲ經由シテ之ヲ爲ス可シ

第二條　艦船長若クハ委任ヲ受ケタル衛兵士官以上若クハ艦船營ノ副長ハ前條之申告ヲ受ケ又ハ自分犯則

者アルヿヲ認知シタル時ハ審問ヲ爲シ事實相違ナキニ於テハ此罰則ニ照シ處斷スヘシ

第三條　犯則者ヲ處斷スルニハ言渡ヲ作リ艦船營ニ在テハ分隊長屯集所ニ在テハ士官ヲシテ之ヲ宣讀セシム其宣讀ニ當リ艦船營長若クハ委任ヲ受ケタル營兵士官以上ノ意見ヲ以テ兵員ヲ整列セシムルヿアル可シ

第四條　此罰則ニ依リ處斷セラレタル者アル時ハ其罪狀罪名ヲ其府艦船營ノ履歷行狀簿及ヒ本人ノ手牒ニ記載ス可シ

○告訴(告發)人口述ヲ以テ爲シタル時調書ノ式

何某ヨリ何某ニ對スル告訴(告發)調書

何府縣何國何區何郡何町何村何番地職業何某ハ年號何年何月何日

○治罪法第

九十五條告訴ハ告訴人ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ爲ス可シ

又告訴ハ口述ヲ以テ之ヲ爲スヿヲ得其告訴ヲ受ケタル官吏ハ調書ヲ作リ告訴人ニ之ヲ讀聞カセ共ニ署名捺印ス可シ若シ告訴人署名捺印スルヿ能ハサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ

告訴人ニハ告訴ヲ受ケタルノ証書ヲ渡ス可シ

何裁判所ニ出席シ當豫審判事ニ左ノ事件ヲ告訴(告發)セリ

一何府縣何國何郡何區何町何村何番地華士族平民何職業何某ナル者年號何年何月何日午前後何時何地ニ於テ自分ニ對シ(何縣何郡何村何某ニ對シ)何々ノ所業ヲ爲シ何々ノ罪ヲ犯シタルニ付此段告訴(告發)ス

一何某カ前文ノ罪ヲ犯シタル証憑ハ何々事實參考トナルヘキ事物ハ何々ナリ

右告訴(告發)人ニ讀聞カセタル所其口述ノ毫モ無相違旨ヲ申立タルニ付本官等告訴(告發)人ト共ニ左ニ署名捺印スル者也

年號何年何月日某裁判所ニオイテ

豫審判事　氏名印

書記　氏名印

「本文ノ告訴(告發)ヲ代人ニ委任シタル時ハ前文ノ首項ノ上ニ何府縣何國何區何郡何町何村何番地何職業何某ノ委任ヲ受ケタル代人ノ十數字ヲ加ヘ而シテ其次項(自分ニ對シ)トアルヲ(何某ニ對シ)ニ作ル又無能力者ノ代人ノ告訴(告發)ヲ爲ストキハ其旨ヲ記入スヘシ」

「告訴(告發)人署名捺印スル能ハサル時ハ本文ノ末項申立トアルヨリ下ノ文字ヲ左ノ如ク作ルヘシ」

申立タリ但シ何々ニ付署名捺印スルヿ能ハサル旨ヲ述フルニ付本官等ノミ左ニ署名捺印スル者也

年號月日某裁判所ニ於テ

告訴(告發)人　氏名印

豫審判事　氏名印

書記　氏名印

「被害者口述ヲ以テ訴訟ヲ申立ル片ノ調書式モ本文告訴調書式ニ準ス」

○告訴(告發)ヲ受ケタル証書ノ式

証書

何住所職業何某ヨリ何住所身分職業氏名ニ對スル何々一件ノ告訴(告發)ヲ受ケタル證トシテ此書面ヲ與フル者也

年號月日某裁判所ニ於テ

豫審判事　氏名印

書記　氏名印

○豫審件數錄式

受付	何年何月何日	番號	第　何號	掛官	判事 氏名 書記 氏名	件名	何々	在檻	何年何月何日	責付	何年何月何日
保釋	何年何月何日	終結	何年何月何日	被告人	住所身分 職業 氏名	證憑物件	何品 何々	幾點	何々		

○治罪法第百十五條豫審判事ハ告訴告發ノ事件急速ヲ要スル時ハ直チニ被告人ニ對シ勾引狀ヲ發シ又ハ訊問シタル後勾留狀ヲ發スルヿヲ得此場合ニ於テハ速カニ其旨ヲ檢事ニ通知シ且証憑及事實參考ト爲ル可キ事物ヲ送致ス可シ若シ其通知ヲ爲シタルヨリ一日内ニ檢事起訴ヲ爲サヽル時ハ速ニ被告人ヲ放免ス可シ但後日起訴ヲ爲スノ妨礙ト爲ルヿナカルヘシ

○告訴告發ノ事件急速ヲ要スルヿ直ニ被告人ニ對シ勾引狀ヲ發シ又ハ訊問シタル後勾留狀ヲ發スル場合檢事ニ通知シ証憑及ヒ參考ノ事物ヲ送致スル文書ノ式

通知書

年號何年何月何日住所職業何某ヨリ住所身分職業何某ヘ相係リ何々ノ犯罪ヲ告訴(告發)致シ候處其事件急速ヲ要スルヲ以テ(直)チニ被告人ニ對シ勾引狀ヲ(被告人訊問ノ上勾留狀ヲ)發シ候條此段通知旁証憑及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事物別紙目錄ノ通及送致候也

何年何月日某裁判所ニ於テ

某裁判所　豫審判事　氏名印

檢事氏名殿

別紙目錄ノ式

目錄

一何々ノ書面　何通

一何品　何通

一何々ノ圖面　何通

右之通候也

○治罪法第百十條重罪輕罪ノ被害者公訴ニ附帶シテ私訴ヲ爲サヽル時ハ被害者ヨリ民事原告人ト爲ルヘキノ申立ヲ受ケタルヿ其旨ヲ檢事ニ通知スル文書ノ式

通知書

住所職業何某儀住所身分職業氏名カ何々ノ罪ヲ犯シタル

ヲ爲サントスル時ハ告訴ト共ニ之ヲ申立テ又ハ告訴ヲ爲シタル後其旨ヲ豫審判事ニ申立ツ可シ

豫審判事直チニ被害者ヨリ民事原告人ト爲ル可キノ申立ヲ受ケタル時ハ檢察官ノ起訴ナシト雖モ公訴私訴ヲ併セテ受理シタルモノトス

豫審判事ハ何レノ場合ニ於テモ直チニ被害者ヨリ民事原告人ト爲ル可キノ申立ヲ受ケタル時ハ其旨ヲ檢事ニ通知ス可シ

○治罪法第百十六條被告人所在ノ地ノ豫審判

○被告人所在ノ地ノ豫審判事直チニ告訴告發ヲ受ケ又ハ檢事ヨリ其送致ヲ受ケ其事件急速ヲ要スル時ハ被告人ノ訊問又ハ檢証處分ヲ爲シタル後證憑等ヲ

ヲ告訴シ及此事件ニ付キ民事原告人ト爲ルヘキ旨申立候條此段及通知候也

年月日時某裁判所ニ於テ

某裁判所　豫審判事　氏名印

檢事氏名殿

事直チニ告訴告發ヲ受ケ又ハ檢事ヨリ其送致ヲ受ケ被告事件急速ヲ要スル時ハ通常ノ規則ニ從ヒ被告人ノ訊問又ハ檢証處分ヲ爲シタル後証憑及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ヲ犯罪ノ地ノ豫審判

犯罪ノ地ノ豫審判事ニ送致スル文書ノ式

送致書

何府縣何國何區郡何町村何番地何某ヨリ何府縣何國何區郡何町村何番地何某カ何々ノ罪ヲ犯セシ事ヲ拙者ニ告發(告訴)シ(或ハ何々ノ罪ヲ犯セシ事ヲ告發(告訴)セシ旨ヲ以テ檢事氏名ヨリ送致ヲ受ケ)其事件急速ヲ要スルニ付(被告人ノ訊問(檢証處分ヲ爲シタル上別紙目錄ノ通リ証憑參考ト爲ル可キ事物)及送致候也

何年何月日某裁判所ニ於テ

某裁判所　豫審判事　氏名印

豫審判事(氏名殿(御中)

一若シ被告人禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト思料シタル時

事ニ送致ス可シ

若シ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト思料シタル時ハ勾留狀ヲ以テ被告人ヲ送致スルヿヲ得

ハ本文(訊問ニ處分)ヲ爲シタル」トアルヨリ下文ヲ(處禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ者ト思料候別紙目錄ノ証憑(事實參考トナル可キ(事物)相添ヘ勾留狀ヲ以テ被告人何某及送致候也」ニ作ルヘシ」

目錄

一何々ノ書面　何通

一何品　何通

一何々ノ圖面　何通

右之通候也

○太政官布告

○第二十三號　明治十五年五月十三日

憲兵ヲ設置シタル地方ニ於テハ其將校下士ハ司法警察官トシ卒ハ巡査ト同シク司法警察ノ事ヲ行ハシム

○第二十五號　明治十五年五月廿四日

明治元年十二月二十三日ノ布告ニ原ツキ富籤賣買ノ牙保幇助ヲ爲シ及富籤ヲ購買シタル者處分方左ノ通制定ス

第一條　凡富籤賣買ノ牙保若クハ幇助ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條　凡富籤ヲ購買シタル者ハ其價ヲ拂ヒタルト未タ拂ハサルトヲ問ハス二十日以上四月以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス他人ノ名ヲ借リテ購買シタル者及他人ヨリ讓リ受ケタル者亦同シ

第三條　第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定

メタル刑期金額ノ二倍ニ處ス但初犯ニ科シタル刑期金額ニ下ルヿヲ得ス

第四條　富籤ニ關スル犯罪ヲ告發シタル者ニハ其徵スル所ノ罰金ノ半額ヲ給與ス

第五條　富籤ニ關スル罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ其罪ヲ免ス

再犯ニ係ル者ハ自首スト雖モ其罪ヲ免セス

第六條　富籤ニ關スル犯罪ニ因テ得タル財物ハ之ヲ沒收ス

自首ニ因テ罪ヲ免シタル者ト雖モ財物沒收ハ仍ホ前項ニ依ル

○司法省布告

○丙第十八號　明治十五年五月二日

○治罪法第二百六十條第一項重罪裁判所ニ移スノ言渡確定シタル時ハ檢事其言渡書ニ一切ノ書類ヲ添ヘ速ニ之ヲ控訴裁判所檢事長ニ送致ス可シ

治罪法第二百六十條ノ場合ニ於テ被告人ヲ重罪裁判所開廳ノ地ノ監倉ニ移ストキハ檢事ハ前令狀ニ檢事長ノ命令書ノ寫ヲ添テ重罪裁判所ノ檢察官ニ送致シ其檢察官ハ是等ノ書類ヲ其他ノ監倉長ニ示シテ被告人ヲ收監セシムルノ處分ヲ爲ス可シ其他法律ニ從ヒ被告人ヲ他ノ監倉ニ移ス場合ニ於テモ此ノ例ニ準スル義ト心得可シ

此旨相達候事

○丙第十九號　明治十五年五月五日

內訓條例別紙ノ通大審院諸裁判所ヘ相達置候處其(廳府縣)ニ於テモ法律上ノ疑義ニ付テハ該達ニ照依シ內訓ヲ請フヿヲ得ヘシ此旨相達候事

(別紙)　內訓條例

第一條　凡內訓條例ハ司法卿ト各裁判所(裁判官檢事)ト

ノ間ニ於テ用ユル所ノ内規ニシテ專ラ情實疏通事理伸暢ノ爲ニ設クルモノナリ故ニ此條例ニ從フモノハ尋常伺指令ノ効力アラサルモノトス(但伺指令ハ各其職務ノ權限ニヨリ發令スルモノナリ該條例ハ職權ニ不拘唯其注意ヲ要スル爲ニ發スルモノナルニヨリ必シモ準據セサルヘカラサルノ効力アラストス)

第二條　凡民刑上疑問疑獻且裁判百般ノ事情其注意ヲ要スルモノハ總テ此ノ條例ニ從フヘシ

第三條　凡此條例ニ從テ裁判官ヨリ司法卿ニ請フモノハ末文内訓ヲ請フト書シ尋常伺文ニ殊別スヘシ

第四條　凡此條例ニ從テ司法卿ヨリ各裁判所ヘ致スモノハ末文内訓ニ及ト書シ尋常ノ指令ニ殊別ス

第五條　凡裁判所ニ於テ尋常ノ伺トシテ出スモノト雖

ドモ司法卿ニ於テ内訓トナスヘク見込ムトキハ末文内訓ニ及トナシ又内訓ヲ請フトシテ出スモ指令トナスヘシト見込ムトキハ末文指令ニ及トナシ還付ス必シモ原文ヲ改作セシムルヲ要セス箇使ニ從フヲ以テ旨トスレハナリ

第六條　内訓ハ指令ノ効力ナシト雖ドモ其從フヘカラサルモノハ其事理ヲ詳悉シ再ヒ之ヲ請ヒ反覆數回妨ケナキヲ以テ其定ムル所ヲ待ツヘシ亦事理伸暢ノ意ナリ

○丙第二十號　明治十五年五月十一日

犯罪ノ用ニ供シタル物件及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ本案ノ裁判ヲ言渡ス迄ニ所有主ヲ發見セサル時ハ刑法第四十三條第四十四條ニ從ヒ其本案ノ裁判ト共ニ沒收

○刑法第四十三條左ニ記載シタル物件ハ宣告

シテ官ニ沒收ス但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ

一、法律ニ於テ禁制シタル物件、二、犯罪ノ用ニ供シタル物件、三、犯罪ニ因テ得タル物件

同第四十四

ノ言渡ヲ爲スヘシト雖モ右ノ物件ハ之ヲ其裁判所々在ノ地及ヒ犯罪ノ地ニ公告シ一年間(公告シタル日ヨリ起算ス)ニ所有主ヲ發見シタル時ハ檢察官ヨリ直ニ之ヲ還付スヘシ此旨爲心得相達候事

但シ檢察官ニ於テ保存ス可カラサル物件又ハ保存スルニ付費用ヲ要スヘキ者ト思料スル時ハ公賣ノ處分ヲ爲シタル上其代金ヲ保存シ置クヘシ

○丁第三十號　明治十五年五月十六日

陸軍檢閲條例第四條中左ノ通改正ノ儀太政官御達有之候條此旨相達候事

司法省

陸軍檢閲條例第四條中十月一日ヨリ始メ十一月三十日ヲ以テ畢リトストアルヲ九月一日ヨリ始メ十月三十一日ヲ以テ畢リトストト改正候條此旨相達候事

左大臣熾仁親王

明治十五年五月十八日

○丁第三十一號　明治十五年五月十八日

明治十一年丁第廿及廿一廿二號達中刑事訴訟表雛形並記載例ヲ廢シ更ニ別冊ノ通刑事裁判統計材料表式并書例相定候條本年分ヨリ右ニ準シ其廳ニ於テ取扱タル事件ヲ記載シ翌年三月限リ差出スヘシ此旨相達候事

但大審院各表ハ裁判所ニ附セス

治安裁判所ニ於テ輕罪各表ヲ調成シタル時ハ所轄ノ始審裁判所ニ於テ之ヲ取纏メ其ニ差出スベシ

○丁第三十二號　明治十五年五月十八日

明治十一年丙第十一號達相廢シ更ニ別冊ノ通刑事裁判統計材料中特赦表式並書例相定候條本年分ヨリ右ニ準

條法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス犯罪ノ用ニ供シ及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ係リ又ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收スルヿヲ得ス

シ特赦事件ハ監獄長ヨリ申立シ者ニ至ル迄總テ調成シ翌年三月マテニ差出スヘシ此旨相達候事

（表式并書例ハ略ス）

○被告人調書ノ式

被告人何某調書

年號何年何月何日豫審判事氏名ハ何所ニ於テ書記氏名ノ立會ニテ何々事件ノ被告人何某ヲ訊問スル事左ノ如シ

問　其方ノ氏名年齢身分職業住所出生ノ地ハ如何

答　自分氏ハ何名ハ某年齢ハ何年何月身分ハ華族士族平民職業ハ何業住所ハ何府何縣何國何郡何區何町何村何番地出生ノ地ハ何府何縣何國何郡何區何町何村何番地ナリ

問　其方ハ何々

○治罪法第百四十九條

豫審判事ハ先ツ被告人ヲ訊問ス可シ但檢証ヲ爲シ又ハ証人ヲ訊問スルニ付キ急速ヲ要スル時ハ此限ニ在ラス

同第百五十一條書記ハ訊問及ヒ陳述ヲ錄取シ被告人ニ之ヲ讀聞カス可シ

豫審判事ハ被告人ニ其陳述ノ相違ナキヤ否ヲ問ヒ署名捺印セシム可シ若シ署名捺印スルヿ能ハサル時ハ其旨ヲ附

答　身分ハ何々

問　何々

答　何々

問　其方ハ前ニ罪ヲ犯シ裁判ヲ受タルヿアリヤ

答　云々

證憑物件何品幾点ヲ被告人ニ示ス

問　此何品ハ何々シタルモノナリヤ（其方ノ所持ナリヤ

答　何々

右被告人何某ニ讀聞カセタル所其陳述ノ毫モ相違ナキ旨ヲ中立テ左ニ署名捺印ス

被告人　何　某印

（被告人其陳述ヲ變更增減ス可キヿヲ申立タル時ハ右被告人何某ニ讀聞カセタル所其陳述ヲ變更增減ス可キヿヲ申立タリ

記ス可シ

書記ハ本條ノ式ヲ履行シタルヿヲ記載シ豫審判事ト共ニ署名捺印ス可シ

同第百五十二條被告人ハ其陳述ニ付キ變更增減ス可キヿヲ申立タル時ハ更ニ訊問ヲ爲シ前條ノ規則ニ從ヒ其訊問及ヒ陳述ヲ錄取シ之ヲ讀聞カセ署名捺印ス可シ

問　何々

答　何々

右被告人何某ニ讀聞カセタル所其陳述ノ毫モ相違ナキ旨ヲ申立テ左ニ署名捺印ス

被告人　何　某印

被告人署名捺印スルヿ能ハサル時　右被告人何某ニ讀聞セタル所其陳述ノ毫モ相違ナキ旨ヲ甘供ス但何々ニ付署名捺印スルヿ能ハサル旨申立タリ或ハ但シ何々ニ付署名(捺印)スルヿ能ハサル旨申立テ左ニ捺印(署名)ス

被告人

被告人　何某

右ハ治罪法第百五拾壹條ノ式ヲ履行シタリ依テ本官等左ニ署名捺印スルモノナリ

年月日　某所ニ於テ

豫審判事　氏　名印

書記　氏　名印

(公廷ニ於テ重罪ヲ犯シタル者アルトキノ被告人調書ハ治罪法第貳百七拾五條此書式ニ準ス但豫審判事ニ作リ被告人何某ニ讀聞カセタル所其陳述ノ毫モ相違ナキ旨ヲ申立トアルヨリ下ヲ(タリ依テ本官等何某ト共ニ左ニ署名捺印スル者ナリ)ト記シ判事書記及ヒ被告人署名捺印スヘシ治罪法第百五拾壹條ノ式ヲ履行シタルヿヲ記スルニ及ハス)

○被告事件罪トナラサル時免訴言渡書式

言渡書

某輕罪裁判所豫審判事ハ檢事ノ請求ニ依リ何府縣何國何區町郡何村職業氏名カ被告タル姦淫事件ニ付キ豫審ヲ遂ル

○治罪法第二百二十四條豫審判事ハ左ノ場合

ニ於テ免訴ノ言渡ヲ爲シ且被告人勾留ヲ受ケタル時ハ放免ノ言渡ヲ爲ス可シ

同條第二項被告事件罪ト爲ラサル時

○治罪法第二百二十四條豫審判事ハ左ノ場合

處何々ノ證憑ニ依レハ氏名ハ何年何月何日何處ニ於テ何某ト相姦シタルハ相違ナシト雖モ何某ハ何年何月何日即チ姦通前既ニ其夫誰某ト離婚セシヿ戸籍帳ニ於テ明瞭ナルニ依リ右所爲ハ罪トナラサルモノトス因テ免訴ノ上放免ス（勾留ヲ受タル片）ル者也

何年何月日時某裁判所ニ於テ

豫審判事　氏　名印

書記　氏　名印

○公訴ノ期滿免除トナリタル片免訴ノ言渡書式

言渡書

某輕罪裁判所豫審判事ハ檢事ノ請求ニ依リ何府縣何國何區何町村何番地職業氏名カ（人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル（重罪）ル家資分散ノ際財産ヲ藏匿脫漏シタル（輕罪）流言浮説ヲ爲シ人ヲ誑惑シタル（違警罪））事件ニ付キ豫審ヲ遂クル所被告人氏名カ何々ノ

ニ於テ免訴ノ言渡ヲ爲シ且被告人勾留ヲ受ケタル時ハ放免ノ言渡ヲ爲ス可シ

同條第三項公訴ノ期滿免除ト爲リタル時

罪ヲ犯シタルハ何年何月何日ナルヿ何々ノ証憑ニ依リ明白ナリ依テ治罪法第拾三條ニ公訴私訴ノ期滿免除期限ハ犯罪ノ日ヨリ起算ストアルニ照シ何年何月何日ヨリ檢察官民カ起訴ノ手續ヲ爲タル何年何月何日迄ヲ計算スレハ（三年何月何日）ナリトス乃チ治罪法第拾壹條ニ公訴期（一重罪ハ十年二輕罪ハ三年三違警罪ハ六月）トアルニ照シ治罪法第十何年六月何日第滿免除ノ期限

貳百廿四條公訴ノ期滿免除ト爲リタル場合免訴ノ言渡ヲ爲ス法ニ依リ免訴ノ上放免（勾留ヲ受タル片）スル者也

何年月日某裁判所ニ於テ

豫審判事　氏　名印

書記　氏　名印

○確定裁判ヲ經タル時免訴言渡書式

言渡書

○治罪法第二百廿四條第四項確定裁判ヲ經タル時

某輕罪裁判所豫審判事ハ檢事ノ請求ニ依リ何府縣何國區何町郡何村番地職業氏名カ何年何月何日何所何某方ニ於テ何某所持ノ金三百圓衣類百点竊取シタリト云フ事件ニ付キ豫審ヲ遂ル處何年何月何日某裁判所ニ於テ右事件ハ被告ノ所爲ニアラサル旨ノ裁判ヲ受タルヿ何々ノ書類ニ依リ明白ナリ而シテ其裁判ハ上訴期限ヲモ經過シ已ニ確定シタル者ナルヲ以テ治罪法第九條ニ公訴ヲナスノ權ハ左ノ條件ニ依テ消滅ス三確定裁判トアルニ照シ治罪法第二百廿四條ニ豫審判事ハ左ノ場合ニ於テ免訴ノ言渡ヲ爲シ云々四確定裁判ヲ經タルトキトアルニ依リ免訴スルモノ也

何年何月何日某裁判所ニ於テ

豫審判事　氏　名印

○治罪法第二百二十四條第五項大赦アリタル時

○大赦アリタルトキ免訴ノ言渡書式

言渡書　　書記　氏　名印

某輕罪裁判所豫審判事ハ檢事ノ請求ニ依リ何府縣何國郡區何町村番地職業氏名カ何年何月何日何某方ノ門ヲ踰ヘ家内ヘ忍入金百圓盗取タリト云フ事件ニ付キ豫審ヲ遂ル處被告人氏名カ右ノ竊盗罪ヲ犯セシハ何年何月何々ノ書類ニ依リ明瞭ナリ左スレハ其犯罪ハ何年何月何日ノ大赦以前ニ係ルヲ以テ治罪法第九條ニ公訴ヲ爲スノ權ハ左ノ條件ニ因テ消滅ス五大赦トアルニ照シ治罪法第貳百廿四條ニ豫審判事ハ左ノ場合ニ於テ免訴ノ言渡ヲ爲スヿ且被告人拘留ヲ受タルトキハ放免ノ言渡ヲ爲ス可シ五大赦アリタルトキトアルニ依リ免訴ノ

上放免スル者也

何年 月日 何日某裁判所ニ於テ

豫審判事 氏 名印

書記 氏 名印

○法律ニ於テ罪ヲ全免スル時爲ス免訴ノ言渡書式

言渡書

某輕罪裁判所豫審判事ハ檢事ノ請求ニ依リ何所職業氏甲助カ被告タル僞証事件ニ付キ審理ヲ遂ル處證人ノ陳述被告人ノ白狀ニ依ルニ被告人氏甲助ハ何年何月何日某裁判所ニ於テ証人トメ宣誓ヲ爲シタル上ニテ故ラニ氏乙助カ氏丙助ノ所持セル何品ヲ竊取シタルヲ目擊セシ旨ノ僞供ヲ爲シタルヲ明瞭ナリ左スレハ刑法第二百廿條第貳項ニ輕罪ニ陷ラシムル爲メ僞証ヲ爲シタルモ

○治罪法第二百二十四條第六項法律ニ於テ其罪ヲ全免スル時

ノハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ヲ附加ストアル罪ヲ犯シタルヲ明白ナレハ何々ノ書類ニ依レハ甲助ハ乙助ノ事件裁判宣告ニ至ラサル以前某年某月某日ニ於テ某裁判所ニ其僞證ノ罪ヲ自首シタルヲ判然タルヲ以テ刑法第貳百廿六條ニ其事件ノ裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ自首シタル者ハ本刑ヲ免ストアルニ依リ其罪ヲ免スモノナリ

何年 何月

豫審判事 氏 名印

書記 氏 名印

○治罪法第二百三十三條第一項豫審終結ノ言渡ヲ爲シタル時ハ豫審判事ヨリ速ニ其旨ヲ裁判所長ニ報告ス可シ

○豫審終結ヲ裁判所長ニ報告スル書式

豫審終結ノ報告書

番號	被告人ノ住所職業氏名	罪狀及ビ免訴ノ理由	終結ノ言渡
第一	何縣何國何郡何村何職業何野何助	人ノ所有物ヲ竊盜ス	某輕罪裁判所ニ移ス
第二	何縣何國何區何町何職業何野何助	犯罪ノ証憑充分ナラス	免訴

右本日及終結候間此段致報告候

年何月某裁判所ニ於テ豫審判事　氏名印

何裁判所長

判事　氏名殿

○治罪法第二百三十三條第二項又十五日毎ニ未決ノ豫審事件ニ付キ簡略ナル報告書ヲ差出ス可シ

○未決ノ豫審事件報告書式

豫審未決事件報告書

番號	被告人ノ住所職業氏名	被告事件	受理ノ年月日
第一	何縣何國何郡何村何職業何川何八	竊盜	年號何年何月何日
第二			

右及報告候也

年月日裁判所ニ於テ豫審判事　氏名印

何裁判所長

判事　氏名殿

○管轄違ノ申立ヲ棄却セラレタルニ付故障ヲ爲シタル會議局ニ於テ之ヲ判決スル書式

言渡書

某輕罪裁判所會議局ハ檢事何某カ住所職業氏名ノ被告タル何々事件ニ付何裁判所豫審判事ノ審理中ニ於テ管轄違ノ趣申立タル處其申立ヲ棄却セラレタレトモ右ハ何々ニ付治罪法第何條ニ背キタル不當ノ處分ナル旨ノ故障申立ヲ受ケ其趣意書被告人何某ノ答辨書及ヒ檢事ノ意見書其他訴訟書類ヲ熟閲スル處何々ノ書類ニ依レハ何々ナルヲ以テ豫審判事カ管轄違ノ申立ヲ棄却シタルハ治罪法第四拾條犯罪ノ地ノ裁判所ヲ以テ豫審及ヒ公判ノ管轄ナリトスル明文ニ適當シタルモノトス依テ故障ノ申立ハ之ヲ棄却スルモノナリ

○治罪法第二百三十六條故障ハ其裁判所ノ會議局ニ於テ判事三名以上ニテ趣意書答辨書其他訴訟書類及ヒ檢事ノ意見書ニ依リ之ヲ判決スヘシ

會議局ノ言渡ハ速ニ之ヲ執行ス但其言渡ニ對シテハ豫審終結ノ言渡アリタル後上告ヲ爲スヿヲ得

同第二百三十四條左ノ場合ニ於テハ檢事又ハ被告人ヨリ豫審終結ニ至ルマテ何時ニテモ故障ヲ爲スヿヲ得

同條第一項一、管轄ノ申立ヲ棄却シタル時

○法律ニ背キ令狀ヲ發シタルニ付キ故障ヲ爲シタル時會議局ニ於テ判決スル書式

年號何月某裁判所會議局ニ於テ

判事　氏名印

仝

仝

書記　氏名印

（被告人ニ送達スヘキ言渡書ニハ本文ノ末ニ左ノ但書ヲ加フヿヲ可シ）

但此言渡ニ對シテハ豫審終結ノ言渡アリタル後上告ヲ爲スヿヲ得其期限ハ三日ナリトス

○治罪法第二百三十四條第二項法律ニ背キ令狀ヲ發シ又ハ之ヲ發セサル時

同第二百三十五條故障ヲ爲サントスル者ハ其裁判所ノ書記局ニ趣意書ヲ差出ス可シ

故障アリタル時ハ書記其趣意書ノ謄本ヲ對手人ニ送達シ對手人ハ三日内ニ答辨書ヲ差出スヿヲ得

故障ニ付テハ豫審處分ノ執行ヲ停止セス但保釋責付ヲ爲シタルニ付キ檢事ヨリ故障アリタル時ハ其執行ヲ停止ス

判決言渡書

某輕罪裁判所會議局ハ被告人住所職業氏名カ檢事氏名ヨリ起訴セラレタル謀殺事件ニ付キ豫審判事氏名ヨリ何年何月何日何時ニ發セラレタル拘引狀ハ治罪法第百廿條第百廿壹條ニ的當セス不法ノ處分ナル旨ノ故障申立ヲ受ケ其趣意書檢事氏名ノ答辨書其他訴訟書類及ヒ檢事ノ意見書ヲ閲スルニ何々ノ書面ニ依レハ被告人何某ハ召喚狀ヲ受ケタル日時ニ出廷セサルニアラサレハ治罪法第百廿條ニ依リ勾引狀ヲ發スヘキニ非ス又被告人定リタル住所アリ及ヒ罪證ヲ煙滅シ又ハ逃亡スル等ノ恐レアルニアラサルヿ何々ニ依リ明白ナレハ治罪法第百廿一條ヲ適用シ勾引狀ヲ發スヘキニ非ストス依テ豫審判事氏名ノ發シタル勾引狀ハ之ヲ取消ス者也

何年何月何日某裁判所會議局ニ於テ

判事　氏名印

仝

仝

書記　氏名印

（法律ニ背キ令狀ヲ發セサルトキノ判決ハ之ニ準ス法律ニ背キ保釋責付ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サヽルトキ亦同シ）

（被告人ニ送達スヘキ言渡書ニハ本文ノ末ニ左ノ但書ヲ加フヘシ）

但此言渡ニ對シテハ豫審終結ノ言渡アリタル後上告ヲ爲スヿヲ得其期限ハ三日ナリトス

○治罪法第二百三十八條忌避ノ申立ハ豫審判事ニ之ヲ爲ス可シ但其申立ヲ爲スニハ趣意書二通ヲ書記局ニ差出ス可シ

書記ハ趣意書ヲ豫審判事ニ送致シ豫審判事ハ其送致ヲ受ケタルヨリ二十四時內ニ其申立ヲ認可シ又ハ棄却スルヿヲ趣意書ノ紙尾ニ記載シ二通ヲ書記局ニ藏置シ一通ヲ本人ニ送達ス可シ

○檢事ヨリ豫審判事ニ對シ忌避ノ申立ヲ爲シ趣意書ヲ差出シタルトキ其申立ヲ認可又ハ棄却スルヿヲ該書紙尾ニ記載スル書式

被告人
民事原告人

忌避申立ノ趣意認可
棄却候事

年　月日　某裁判所ニ於テ

豫審判事　氏　名印

（被告人ヨリ爲シタル忌避ノ申立ヲ棄却シタルトキ被告人ニ送達スヘキ分ニハ忌避申立ノ趣意棄却候事トアル次ニ但書ヲ加フ可シ）

但此言渡ニ對シテハ其送達ヲ受ケタルヨリ一日內ニ故障ヲ爲スヿヲ得

○治罪法第二百三十四條第四項越權ノ處分アル時

同第二百三十五條第二百三十六條前ニ出ス

○越權ノ處分アルニ付キ故障ヲ爲シタル時會議局ニ於テ判決スル書式

判決言渡書

某輕罪裁判所會議局ハ民事原告人住所氏名カ被告人何某ノ何々事件ニ就キ損害ヲ受ケタルヿヲ証スル爲メ何府(縣)何國何郡(區)何町(村)氏名其他某々々ヲ証人トシテ指名シタル處豫審判事何某ハ治罪法第百七拾條ニ背キ其一名ヲモ呼出サス右ハ其權限ヲ超越シタル者ナルヲ以テ其處分ニ服セサル旨ノ故障申立ヲ受ケ其趣意書被告人何某ノ答辨書其他訴訟書類及ヒ檢事ノ意見書ヲ閱スルニ何々ノ理由ナルヲ以テ豫審判事ニ於テハ何某ノ指名シタル証人五名ヲ限リ呼出ス可キモノナリ

何年何月何日某裁判所會議局ニ於テ

判事　氏　名印

仝

仝

書記　氏　名印

（被告人ニ送達スヘキ言渡書ニハ本文ノ末ニ左ノ但書ヲ加フヘシ）

但此言渡ニ對シテハ豫審終結ノ言渡アリタル後上告ヲ爲スヿヲ得其期限ハ三日ナリトス

○忌避ノ故障ニ付會議局ノ判決書式

判決言渡書

某輕罪裁判所會議局ハ檢事氏名カ被告人住所職業氏名ノ何々一件豫審中ニ於テ豫審判事何某ニ對シ忌避ノ申立ヲナシタルニ該判事ヨリ之ヲ棄却セラレタレトモ何々ニ付其棄却ハ不當ナル旨ノ故障申立ヲ受ケ其趣意書及ヒ豫審判事氏名ノ辨明書ヲ熟閲スルニ豫審判事氏名ノ妻某ハ被告人氏名ノ姉ノ子ノ配偶者某ト平素入魂ノ交際アルヲ以テ某年號月日ニ在テ同人ヨリ何品ヲ貰受タルヿ何々ニ依リ明瞭ナリハ治罪法第貳百卅七條ニ何々其第三ニ何々トアルニ照シ檢事ニ於テ豫審判事ヲ忌避スルヲ得ヘキモノトス依テ檢事氏名カ爲シタル忌避ノ申立ヲ認可シ豫審判事氏名ノ棄却ヲ取消スモノ也

何年何月何日某裁判所會議局ニ於テ

判事　氏　名印

仝

仝

○治罪法第二百三十九條豫審判事忌避ノ申立ヲ棄却シタル時ハ其申立人ヨリ故障ヲ爲スヿヲ得

會議局ニ於テハ故障ノ趣意書及ヒ豫審判事ノ辨明書ニ依リ判決ヲ爲スヿ可シ

同第二百四十一條會議局ニ於テ忌避ニ付テノ

故障ヲ棄却シタル時ハ上告ヲ爲スヿヲ得但豫審終結ノ言渡アリタル後ニ非サレハ之ヲ爲スヿヲ得ス

（本文ノ反對即チ第貳百四拾壹條ノ場合ノ如ク故障ノ申立ヲ棄却スルトキハ其理由ヲ言渡書ニ記載シ而シテ結文ヲ「豫審判事氏名カ爲シタル棄却ノ指令ヲ認可シ檢事氏名ノ故障ヲ棄却スルモノ也」ニ作ルヘシ）

（被告人ノ忌避申立ヲ棄却シタルトキ被告人ヨリ故障ヲ爲シ其故障モ亦棄却シタルトキ被告人ニ送達スル言渡書ニハ左ノ但書ヲ加フ可シ）

但此言渡ニ對シテハ豫審終結ノ言渡アリタル後上告ヲ爲スヿヲ得其期限ハ三日ナリ

○豫審判事自ラ會議局ニ回避ノ申立ヲ爲シタル時同局ニテ之ヲ判決スル書式

○治罪法第二百四十二條豫審判事自ラ第二百三十七條ニ定メタル原由アルヿヲ認メ又ハ回避ス可キ者ト思料シタル時ハ會議局ニ回避ノ申立ヲ爲ス可シ

回避ノ申立ハ會議局ニ於テ之ヲ判決ス可シ同第二百三十七條左ノ場合ニ於テハ檢事被告人又ハ民事原告人ヨリ豫審終

判決書

書記　氏名印

某輕罪裁判所會議局ハ豫審判事氏名カ何縣何國何郡何村何番地農業甲川一郎長男乙山二助ノ何々事件ヲ取調中自ラ回避ス可キモノト認メタル旨ノ回避申立ヲ受ケ審案スルニ被告二助カ妻小六ト氏判事カ妻之ちト異父姉妹ノ間柄ナルヿ何々ニ依リ明白ナレハ治罪法第貳百卅七條ニ定メタル原由アリトス依テ回避ノ申立ヲ認可スルモノ也

年號何年何月何日某裁判所會議局ニ於テ判決ス

判事　氏名印

仝

仝

書記　氏名印

結ニ至ルマテ豫審判事ノ忌避スルヿヲ得
一、豫審判事又ハ其配偶者ト被告人被害者又ハ是等ノ者ノ配偶者ト親屬ナル時、二、豫審判事被告人又ハ民事原告人ノ後見人ナル時、三、豫審判事又ハ其配偶者ニ於テ民事原告人被告人又ハ是等ノ者ノ親屬ヨリ賄賂ニ非スト雖ヒ贈物ヲ收受シ若クハ聽許シタル時

○治罪法第二百四十八條檢事民事原告人及ヒ被告人故障ヲ爲スニハ申立書ヲ書記局ニ差出スヿヲ得シ書記ハ速ニ其旨ヲ對手人ニ通知スヿヲ得シ故障申立人ハ三日內ニ趣意書ヲ書記局ニ差出スヿヲ得シ書記ハ速ニ趣意書ヲ對手人ニ送達シ對手人ハ三日內ニ答辨書ヲ差出スヿヲ得

○書記ヨリ對手人ヘ故障アリタルヿヲ通知スル書式

通知書

當裁判所ニ於テ住所職業氏名カ被告タル何々一件ニ付爲シタル豫審終結ノ言渡ニ對シ故障ヲ爲スベキ爲メ檢事氏名（又ハ民事原告人其他）其他ヨリ本日午前後何時其申立書ヲ差出シタルニ付此旨被告氏名（其他）ニ通知スルモノ也

何年何月何日何時某裁判所ニ於テ此通知書ヲ作リ使丁ヲシテ送達セシムルモノ也

書記　氏名印

使丁　氏名印

受取人　氏名印

（檢事ニ通知スルトキハ本文此旨ノ下ヲ（及通知候也）ニ作リ書記ノ次ニ（某裁判所檢事氏名殿）ト記スヘシ）

（治罪法第三百卅九條第三百六拾八條ノ控訴アリタルニ付通知スル書式ハ本文ニ準ス但シ豫審終結ノ言渡ヲ裁判言渡ニ作リ故障ヲ控訴ニ作ルヘシ）

年號何年何月何日何時某所ニ於テ一通ヲ氏名ニ渡シ各自此ニ署名捺印シタリ

年月日時某所ニ於テ

（本人ニ渡スヿヲ得サル場合其住所ニ於テ同居ノ親屬又ハ雇人ニ渡ストキハ）年號月日時本書ヲ送達スル爲メ某地氏名ノ宅ニ赴キタレトモ同人不在ニ付同居ノ親屬（雇人）何某ニ渡シ各自ニ署名捺印シタリ（或ハ）ニ

署名捺印セシメタルニ何々ニ付署名捺印スルヿ能ハサル旨ヲ述フルニ付本職ノミ此ニ署名捺印シタリ）

年月日時某所ニ於テ　　使丁　氏　名印

何某同居ノ父（其他親屬雇人）

受取人　氏　名印

本書ヲ送達スル爲メ某地氏名ノ宅ニ赴キタレトモ本人ハ不在且ツ同居ノ妻某ハ之ヲ受取ルヿヲ肯セサルニ付其地ノ戸長何某ヘ渡シタリ　戸長認印

年月日時某地ニ於テ　　使丁　氏　名印

○東京府ヨリ陸軍省ヘ伺并指令

陸軍刑法第百七條ニ揭ケアル主意ハ徵兵令第五十六條

第百七條徵兵故ナク徵集ノ期ニ後レ十日ヲ過クル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ戰時ニ在テ五日ヲ過クル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス

歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ルノ入營延期ノ者ニハ關係無之候得共抽籤後入營前失跡シテ終ニ入營延期トナル者ノ如キハ該條ヲ以テ處分相成候儀ト存候仍テハ右等ノモノ復歸自首スルトキハ東京鎭臺ヘ送附スヘキ哉豫テ心得置度候條御指揮有之度候也

（指令）伺之趣其他ノ檢事若クハ司法警察官ニ付スヘキ儀ト可相心得事

○東海鎭守府ヨリ海軍省ヘ伺并指令

下士以下重罪ノ豫審輕罪ノ公判本府ニ於テ執行候節喚出シタル證人醫師（軍醫ニアラス）鑑定人通辨人等ニ支給スヘキ旅費日當止宿料ハ明治十四年第六十七號布告刑法附則第四十九條ニ照シ支給シ同則第五十條第五十一條第五十二條ヲ適用シ被告人ヨリ裁判費用ヲ徵セサル

者故ナク召集ノ期ニ後レ十日ヲ過クル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ戰時ニ在テ五日ヲ過クル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

儀ト心得可然哉此段伺出候條至急御指令相成度候也

（指令）伺之趣海軍治罪法制定迄ノ間ハ昨年十二月丙第七十五號達裁判々事々務ノ取扱手續ノ末項ニ據リ處分可致儀ト可相心得事

○刑法第三十三條禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス現任ノ官職ヲ失ヒ及ヒ其刑期間公權ヲ行フヿヲ停止ス

○岡山縣ヨリ陸軍省ヘ伺并指令

普通刑法第三十三條第三十四條ニ據リ公權停止セラレタル者徴兵取扱ノ儀ニ付左ニ相伺候

第一項　徴兵年齢以前禁錮二年以上ニ處セラレ適齢ノ年現刑中ノ者及入營前禁錮一ヶ年以上ニ處セラレ公權停止セラレタル者或ハ監視ニ付セラレタル者ハ令第五十六條ニ依リ翌年回取計可然哉

第二項　適齢各月屆出前後ヲ問ハス禁錮五年以下ノ刑ニ處セラレ公權停止ノモノ滿期刑免ニ至リ常備年期ノ第三年檢査時限ヲ經過セルモノハ令第三十四條ニ據リ平時ニ於テ免役可然哉

第三項　禁錮刑期中父兄死亡或ハ癈疾等ニ係リタル時刑免セラレタル者ヲ以テ嗣子又ハ相續人ト定ムル者ハ令第三十五條ニ據リ免役可相成哉

第四項　前條ノ者ハ國民タルノ權ヲ停止セラレタル者ニ付適齢ノ年徴兵名簿ニ編入セラレサルモノトシ該名簿中記載ニ不及乎將タ別簿ヲ製シ所管鎮台ヘ可差出哉

右何分之御指揮相成度此段相伺候也

（指令）

第一項　前半徴集猶豫ニ屬ス後半伺之通

第二項　伺之通

第三項　文意簡短ニ過キ主意ヲ解セス詳細更ニ伺出ヘシ

第四項　翌年回名簿又ハ入營延期翌年回名簿ヘ謄記スヘシ

○告訴告發私訴願下ヲ聞届クル時其願書ノ紙尾ニ記載スル書式

書面願下ノ趣聞届者也

年號月日　某裁判所ニ於テ

豫審判事　氏　名印

書記　氏　名印

○訊問ノ囑託ヲ受ケタル豫審判事ヨリ拘引狀ヲ發シタル豫審判事ヘ訊問ノ事ヲ通知スル文書ノ式及ヒ言渡書ノ式

通知書

住所職業何某何々事件訊問ノ儀御囑託ニ依リ訊問候處別紙調書ノ通リ申立候ニ付此段及通知候也

何年何月日　何裁判所ニ於テ

豫審判事　氏　名印

某裁判所

豫審判事誰某殿

言渡書

何府縣何國何郡何區何町何村何番地職業氏名儀何々事件ニ付何裁判所豫審判事ヨリ勾引狀ヲ發シタル處其以前被告人氏名ハ既ニ當豫審判事ノ管内ニ在ルヲ以テ其取調ヲ求ムルニ依リ勾留狀ヲ以テ假リニ之ヲ勾留シタル上何裁判所豫審判事ノ囑託ニ依リ訊問ヲ遂クル處何々ニ付氏名

ヲ放免スル者ナリ

（又ハ「訊問ヲ遂」ノ下ヲ「ケ前ニ發シタル勾引狀ヲ以テ何裁判所豫審判事ニ送致スル者ナリ」ニ作ル）

何年何月日何裁判所ニ於テ

豫審判事　氏　名印

○治罪法第百二十五條

豫審判事ハ召喚狀又ハ勾引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事由アリテ令狀ニ應スル能ハサルヿヲ証明シタル時ハ被告人ノ所在ニ就テ之ヲ訊問スルヿヲ得若シ被告人其管轄地外ニ在ル時ハ其所在ノ地ノ豫審判事ニ訊問ノ事ヲ屬託ス可シ

豫審判事其管外ニ在ル被告人カ疾病其他正當ノ事由アリテ令狀ニ應スル能ハサルヿヲ訊問ノヿヲ被告人所在ノ地ノ豫審判事ニ囑託スル文書ノ式

囑託書

住所身分職業氏名儀何々事件ニ付（召喚狀ヲ以テ召喚ニ及ヒ拘引狀ヲ以テ拘引ヲ命シ）候處病氣（又ハ何々）ニ付該令狀ニ應スル能ハス然ルニ右事件ハ被告人ノ所在ニ就テ訊問致サヽルヲ得サル事柄ニシテ同人ハ其管内ニ罷在候間貴官ニ於テ被告人ノ所在ニ就キ何々ノ條件御訊問有之度此段及囑託候也

何年何月何日某裁判所ニ於テ

豫審判事　氏　名印

某裁判所

豫審判事氏名殿

御中

○被告人ヲ其親屬又ハ故舊ニ責付シタルヿ此等ノ者ヨリ差出ス受書ノ式

御受書

何府（縣）何國何郡（區）何町（村）何身分職業何某儀御審問中自分ヘ責付相成候ニ付テハ何時ニテモ御呼出ニ應シ出庭致サセ可申此段御受仕候也

何某屬親（故舊）

何所職業

氏　名印

年號月日

○治罪法第二百十九條

豫審判事ハ保釋ノ請求アルト否トヲ問ハス檢事ノ意見ヲ聽キ被告人ヲ其親屬又ハ故舊ニ責附スルヿヲ得

同第百二十七條第一項豫審判事ハ勾留狀ヲ執行シタルヨリ十日ヲ過クル時ハ之ヲ收監狀ニ換ヘ若クハ第二百十九條ノ規則ニ從ヒ被告人ヲ責附ス可シ

何裁判所

豫審判事氏名殿

自署

○勾留狀又ハ收監狀ヲ受ケタル被告人ヲ保釋又ハ責付シ又ハ勾留收監ヲ取消ス時監倉ニ通知スル通知錄ノ式

保釋

年號何年

保釋

責付

令狀取消

通知錄

氏判事

氏書記

責付

令狀取消

何縣何國何郡何町
區何村何番地
身分職業
氏名

判事印　書記印

右勾留（收監）中ノ處本日勾留（收監）狀取消シ保釋差許シ（責付ヲ命シ）候條此旨及通知候也

氏監倉長殿

監倉長印

○治罪法第百四十三條豫審判事ハ豫審中事實發見ノ爲メ必要ナリト思料シタル時ト檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ勾留狀若クハ收監狀ヲ受ケタル被告人ヲ密室ニ監禁スルノ言渡

○密室監禁錄ノ式

一年號何年

密室監禁錄

氏判事
氏書記

第何號　住所身分職業
氏名

判事

一年月日言渡
一年月日訊問
一年月日訊問
一年月日何々ノ事由ニテ言渡ヲ更改スルヿヲ裁判所長ヘ報告ス
一年月日言渡ヲ更改ス
一年月日訊問

裁判所長印

ヲ爲スヿヲ得
同第百四十五條第三項豫審判事ハ十日間ニ少クトモ二度被告人ヲ訊問シ通常ノ規則ニ從ヒ調書ヲ作ル可シ

○治罪法第百四十三條前ニ出ツ

○密室監禁ヲ言渡スヒ監倉長ヘ通知スル文書ノ式

通知書

住所職業氏名儀何々事件ニ付令狀ヲ以テ勾留收監中ノ所本日密室監禁ノ言渡ニ及ヒ候條此段及通知候也

年號月日 某裁判所ニ於テ

豫審判事 氏 名印
書記 氏 名印

何縣
監倉長氏名殿

○密室監禁ノ言渡ヲ更改スルヒ監倉長ニ通知スル文書ノ式

通知書

住所職業氏名儀印々事件ニ付何年月日ノ言渡ヲ以テ密室ニ監禁候處本日更ニ密室監禁言渡候條此段及通知候也

何年何月何日 某裁判所ニ於テ

豫審判事 氏 名印
書記 氏 名印

何縣
監倉長氏名殿

○治罪法第百五十四條豫審判事ハ被告人共犯ナルヿ人違ナキヿ其他事實ヲ發見スル可キ一切ノ摸樣ヲ證スル爲メ必要ナリトスル時被告人ト他ノ被告人証人又ハ其他ノ者ト對質セシムル時ノ調書式

被告人ノ共犯ナルヿ人違ナキヿ其他事實ヲ發見ス可キ一切ノ摸樣ヲ証スル爲メ必要ナリトスル時ハ被告人ト他ノ被告人証人又ハ其他ノ者ト對質セシムルヿヲ得

同第百五十五條書記ハ

被告人何某誰某證人何某對質ノ調書

年號何年何月何日豫審判事氏名ハ何所ニ於テ書記氏名ノ立會ニテ何々事件ノ被告人何某ト該事件ノ證人何某ト對質セシムルヿ左ノ如シ

證人何某ニ問フ　何所ニテ何々シタル者ハ此席ニ在ル被告人何某ナリヤ

答　何々

被告人何某ニ問フ　其方カ何々シタル時何々シタル者ハ此席ニ在ル證人何某何々ナリヤ

答　何々

又問フ　其方ト共ニ何々シタル者ハ此席ニ在ル被告人誰某ナリヤ

答　何々

對質人ノ陳述及ヒ對質ニ因リ生スル一切ノ事件ヲ錄取シ對質人ニ其對質ニ關スル部分ヲ讀聞カス可シ

第百五十一條第百五十二條ノ規則ハ對質ニ付テモ亦之ヲ適用ス

被告人誰某ニ問フ　何々

答　何々

被告人誰某曰ク　何々

被告人誰某ハ面色ヲ變シ(何々)ヲ曰ク　何々

右被告人何某誰某證人何某ニ讀聞カセタル處其各陳述ノ毫モ相違ナキ旨申立テ左ノ署名捺印ス

被告人　何某印

被告人　誰某印

證人　何某印

右ハ治罪法第百五十壹條ノ式ヲ履行シタリ依テ本官等左ニ署名捺印スルモノナリ

年號何年何月何日某所ニ於テ

豫審判事　氏　名印

書記　氏名印

（被告人證人等其陳述ヲ變更增減ス可キヿヲ申立タル時又ハ此等ノ者署名捺印スルヿ能ハサル時ノ式ハ被告人調書式ニ準ス〜シ）

○治安判事ニ臨檢搜索ヲ囑託スルトキノ囑託書式

○本典第二十三葉目參考

囑託書

某府某縣某國某區某郡某町某村何番地職業何某何々一件ニ付事實發見ノ爲メ必要ナルヲ以テ何地臨檢ヲ爲ス可キ處右ハ其家宅搜索ノ上其調書ハ廻送有之度此段及囑託候也

某年某日某所ニ於テ

豫審判事　氏名印

治安判事氏名殿

○治罪法第百六十九條豫審判事ハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル時ハ驛遞電信鐵道ノ官署諸會社ニ其事由ヲ通知シ被告人又ハ豫審ニ關係アル者ヨリ發シ若シクハ是等ノ者

○驛遞電信官署ニ通知シ書類電信ヲ受取ニ付テノ掛合書式

鐵道物件

掛合書

何府某縣某區某郡某町某村何某何々一件ニ付事實發見ノ爲メ必要ナルヲ以テ住所誰某ヨリ何某名宛ノ電信書物件到達候ハヽ至急御差廻シ有之度此段及御掛合候也

年月日某所ニ於テ

豫審判事　氏名印

宛名

同上ノ書類電信物件ヲ受取タル件受取書式

受領證書類

一何々電信物件　何通何通幾点

ニ對シ發シタル書類電報又ハ物件ヲ受取開披スルヿヲ得但受取証書ヲ渡ス可シ

前項ノ物件不用ニ属シタル時ハ其官署又ハ會社ニ還付ス可シ

右受領候也

年 月 日 某所ニ於テ

豫審判事 氏 名印

宛 名

同上ノ書類電信物件ヲ還付スル件ノ掛合書式

某府某縣某國某區某郡何町何村何某何々一件ニ付事實發見ノ爲メ必要ナルヲ以テ御掛合ノ末何々電信書類物件御差廻有之候處右ハ取調ノ上不用ニ属シ候ニ付及還付候條御落手ノ上ハ受領證御廻シ有之度候也

年 月 日 某所ニ於テ

豫審判事 氏 名印

宛 名

（諸會社ヘノ掛合書受取証ハ上ニ準ス）

○豫審公判ノ證人參考人鑑定人呼出錄ノ式

（公判ノ被告人呼出錄亦之ニ準ス）

年號月日製

證

參考 人呼出錄

鑑定

氏豫審判事

〔氏 判事〕

第何號　住所身分職業

〔証人或ハ參考人鑑定人〕氏名

判事　書記

一　何年月日時出廷ノ呼出

一　何年月日時右呼出狀ヲ發ス　使丁

証人　參考人　鑑定人

○治罪法第百七十五條　証人ト爲ル可キ者陸海軍在營ノ軍人軍屬ナル時ハ其所屬長官ヲ經由シテ呼出狀ヲ送達ス其長官ハ即時ニ出庭セシムヿヲ認可シ又ハ職務上已ムヿヲ得サル差支アル時ハ其事由ヲ付シテ出庭ノ延期ヲ豫審判事ニ請求ス可シ

○在營ノ軍人軍屬ヲ證人トシテ呼出スヿヲ呼出狀ヲ送達スルニ付其長官ヘ移文ノ書式

照會書

貴臺又ハ營　何官又ハ卒　氏名儀證人トシテ呼出ノ爲メ別紙呼出狀一通及送付候條下達方可然御取計ノ上其下達ノ塲所並ニ年月日時ヲモ併セテ速ニ御回答有之度候也

何年何月何日某裁判所ニ於テ

豫審判事　氏名印

書記　氏名印

某臺司令長官

陸軍中將又ハ將氏名殿

○治罪法第百七十六條豫審判事ハ前二條ニ定メタル差支ノ場合ヲ除クノ外証人呼出ニ應セサル時ハ檢事ノ意見ヲ聞キ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ言渡ス可シ但其言渡ニ對シテハ故障及ヒ控訴ヲ許サス

豫審判事ハ其証人ニ對シ罰金ノ言渡書ト共ニ再度ノ呼出狀ヲ送達シ又ハ直チニ勾引狀ヲ發スルヿヲ得但其費用ハ証人ヲシテ之ヲ擔當セシム

○証人呼出ニ應セサル時罰金言渡書式

言渡書

何府縣何國何郡何村町職業氏名ハ證人トシテ何年何月何日出廷ス可キ旨ノ呼出ヲ受ケナカラ正當ノ事故ナクシテ其呼出ニ應セサルニ付檢事氏名ノ意見ヲ聞キ治罪法第百七拾九條ニ證人呼出ニ應セサル時ハ檢事ノ意見ヲ聽キ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ヲ言渡スヘシトアルニ依リ罰金五圓ニ處スルモノ也

年月日某裁判所ニ於テ

豫審判事　氏　名印

書記　氏　名印

若証人再度ノ呼出ニ應セサル時ハ二倍ノ罰金ヲ言渡シ且勾引狀ヲ發スルヿアル可シ

○治罪法第百七十七條豫審判事ハ証人初度又ハ再度ノ呼出狀ヲ受ケサルヿ其呼出狀第百七十三條ノ規則ニ背キタルヿ又ハ豫知シ難キ正當ノ事故アリテ出廷スル能ハサリシヿヲ証明

○罰金ノ言渡ヲ取消スニ付言渡書式

言渡書

何府縣何國何郡何村町職業氏名ハ證人トシテ何年何月何日出廷ス可キ旨ノ呼出ニ應セサルニ付罰金五圓ヲ言渡シタル處右呼出狀ハ何々ヲ記載セスシテ治罪法第百七拾三條ノ規則ニ背キタルヿ(又ハ「言渡タル處」ヨリ下ヲ「右ハ何々ノ事故ニ因リ出廷スル能ハサリシヿ」ニ作ル)其證明ニ依リ判然タルヲ以テ檢事氏名ノ意見ヲ聽キ治罪法第百七拾七條ニ何々トアルニ依リ右罰金ノ言渡ヲ取消スモノ也

年月日某裁判所ニ於テ

豫審判事　氏　名印

シタル時ハ
檢事ノ意見ヲ聽キ其罰金言渡ヲ取消ス可シ

書記　氏　名印

○治罪法第百八十一條左ニ記載シタル者ハ証人ト爲ルヿヲ許サス但事實參考ノ爲メ其陳述ヲ聽クヿヲ得

一、民事原告人
二、民事原告人及ヒ被告人ノ親屬
三、民事原告人及ヒ被告人ノ後見人又ハ是等ノ者ノ後見ヲ受クル者
四、民事原告人及ヒ被告人ノ雇人

○參考人調書式

參考人調書

本日卽チ何年何月何日何裁判所ニ於テ何某ノ犯罪一件ニ付事實參考ノ爲メ何某ヲ訊問スル處其供述左ノ如シ

一自分氏名ハ何某年齡ハ何年何月職業ハ何ニシテ何府縣何國何區何郡何町何村何番地ニ住居ス

一自分ハ何々

一年月日何々

一何々

右ノ口書ヲ讀聞カセタル處相違ナキ旨ヲ述ヘタリ依テ本官等何某ト共ニ每葉ヘ契印シ且茲ニ署名捺印スルモノ也

（又變更增減ヲ求メタルトキハ其式左ノ如シ）

右ノ口書ヲ讀聞ケタル處左ノ條件ヲ變更增減センヿヲ請求セリ

一何々ト陳述セシハ何々ノ申立違ナリ

一何々ノ事ヲ見受タル前ニ何々ノ事ヲ誰某ヨリ聞キタリ

右ノ口書ヲ讀聞カセタル處相違ナキ旨ヲ述ヘタリ依テ本官等何某ト共ニ每葉ニ契印シ且茲ニ署名捺印スルモノ也

年月日某裁判所ニ於テ

豫審判事　氏　名印
書記　氏　名印

又參考人署名捺印スルヿ能ハサル時ハ左ノ如ク記ス可シ

參考人　氏　名印

右ノ口書ヲ讀聞カセタル處相違ナキ旨ヲ述ヘタリ去リナカラ何々ニ付署名捺印スルヿ能ハサル旨申立ルニ付本官等ノミ每葉ニ契印シ且茲ニ署名捺印スルモノ也

○証人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ陳述ヲ肯セサル時ハ罰金言渡書式

言渡書

何府縣何國何區何郡何町何村番地職業氏名ハ証人トシテ何年何月日呼出ヲ受ケ出庭シタル處故ナク宣誓ヲ肯セサルシテ陳述ヲ肯ンセサルトキハ〔故ナク宣誓〕トアルヲ刪リ〔宣誓〕シタリト雖モ故ナク陳述〕ト字ヲ塡塞ス　ニ付檢

⊙第百八十三條証人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ陳述ヲ肯セサル時ハ豫審判事檢事ノ意見ヲ聽キ刑法第百八十條ニ從ヒ罰金ヲ言渡ス可シ但其言渡ニ對シテハ故障及ヒ控訴ヲ許サス

醫師藥商又ハ代言ハ辯護人代書人公証人若クハ神官僧侶其身分職業ニ關スル秘密ノ事件ニ事氏名ノ意見ヲ聽キ治罪法第百八拾三條ニ證人宣誓ヲ肯セス又ハ宣誓シテ陳述ヲ肯セサルトキハ豫審判事檢事ノ意見ヲ聽キ刑法第百八拾條ニ從ヒ罰金ヲ言渡ス可シトアルニ依リ刑法第白八拾條ニ裁判ヨリ證人トノ證據ヲ陳述ヲスルヿヲ命セラレタル者故ナクシテ之レヲ肯セサル時ハ亦前條ニ同シ第百七拾九條ニ醫師化學家其他職業ニ因リ官署ヨリ解剖分析又ハ鑑定ヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ四圓以上四拾圓以下ノ罰金ニ處ストアルニ照シ罰金若干ニ處スルモノナリ

某年月日某所ニ於テ

豫審判事　氏　名印

書記　氏　名印

付キ委託ヲ受ケタル者ハ前項ノ例ニ在ラズ

○治罪法第百七十九條豫審判事ハ証人トシテ呼出シタル者ニ對シ其氏名年齢職業住所及ヒ第百八十一條ニ記載シタル者ナリヤ否ヤ問フ可シ

〔鑑定人宣誓ヲ肯ンセス又ハ宣誓シテ鑑定ヲ肯ンセサルトキニ爲ス罰金言渡書式モ之ニ準ス〕

○証人何某調書ノ式

証人何某調書

年號何年何月何日豫審判事氏名ハ何所ニ於テ書記氏名ノ立會ニテ何某カ何々ノ被告事件ニ付証人何某カ訊問スル所左ノ如ク陳述セリ

一自分氏ハ何名ハ某年齢ハ何年何月身分ハ華族士族平民職業ハ何業住所ハ何府縣何國何區町郡何村何番地ナリ

一自分ハ民事原告人ニ非ス

一自分ハ民事原告人及ヒ被告人ノ親属ニアラス

一自分ハ民事原告人及ヒ被告人ノ後見人又ハ是等ノ者ノ後見ヲ受クル者ニ非ス

同第百八十一條前ニ出ス

同第百八十八條書記ハ証人ノ陳述ニ付キ各別ニ調書ヲ作ル可シ

其調書ニハ証人宣誓ヲ爲シタルヿ又ハ爲サヽルノ事由ヲ記載ス可シ

同第百八十九條豫審判

一身分ハ民事原告人及ヒ被告人ノ雇人ニ非ス

証人何某ハ宣誓ヲ爲シタル上ニテ左ノ陳述ヲ爲シタリ〔証人何某ハ何々ニ付治罪法第百八拾三條第貳項ニ記シタル者ノ類宣誓ヲ爲サズシテ左ノ如ク陳述セリ〕

一何々

一何々

一何々

一何々

証憑物件何品幾点ヲ証人何某ニ示ス

一只今示サレタル何品ハ自分カ盗レタル品ニ相違ナシ〔云々〕

一何々

右證人何某ニ讀聞カセタル所其陳述ノ毫モ相違ナキ旨

事ハ証人ニ其陳述ノ相違ナキヤ否ヲ知ラシムル爲メ書記ヲシテ調書ヲ讀聞カセシム可シ

証人ハ其陳述ヲ變更增減セントヲ請求スルヲ得書記ハ其請求アリタルヲ及ヒ變更增減ノ條件ヲ調書ニ記載シ豫審判事及ヒ証人ト共ニ署名捺印ス可シ若シ証人署名捺印スルヲ能ハサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ

ヲ申立タリ依テ本官等何某ト共ニ左ニ署名捺印スルモノナリ

年 月日 某所ニ於テ

豫審判事 氏名印
書記 氏名印
證人 何某印

（證人其陳述ヲ變更增減セシヲ請求シタルトキハ右証人何某ニ讀聞カセタル所其陳述ヲ左ノ如ク變更增減セントヲ請求シタリ

一何々

一何々

右證人何某ニ讀聞セタル所其陳述ノ毫モ無相違旨申立タリ依テ本官等何某ト共ニ左ニ署名捺印スル者也

年 月日 某所ニ於テ

豫審判事 氏名印

書記 氏名印
証人 氏名印

（証人署名捺印スルヲ能ハサルハ右証人何某ニ讀聞カセタル所其陳述ノ毫モ相違ナキ旨申立タリ但シ何々ニ付署名捺印スルヲ能ハサル旨ヲ述フルニ由リ本官等ノミ左ニ署名捺印スルモノ也

年 月日 某所ニ於テ

豫審判書 氏名印
書記 氏名印

（或右証人何某ニ讀聞カセタル所其陳述ノ毫モ相違ナキ旨申立タリ但何々ニ付署名（捺印）スルヲ能ハサル旨ヲ述フルニ由リ本官等ハ左ニ署名捺印シ何某ハ捺印（署名）スルモノナリ

豫審判事　氏　名印
書記　氏　名印
證人　印

〔證人　何　某〕

〔公判ノ證人調書ハ治罪法第二百八十七條第二百七十五條等此書式ニ準ス但シ「豫審判事」ヲ「判事」ニ作リ「書記氏名立會ニテ」ヲ「檢事氏名書記氏名ノ立會ニテ」ニ作ルヘシ

○治罪法第百七十六條本典第二百四十六葉齟頭ニ出ツ

○證人重罪輕罪ノ犯所又ハ其他ノ場所ニ豫審判事同行スルヿヲ肯セサルキ罰金言渡書式

言渡書

何府縣何區郡何町村職業氏名ハ證人トシテ何府縣何國何區郡何町村職業氏名カ犯罪ノ場所〔何々ノ場所ニ〕同行スルヲ命シタルニ故ナク肯セサルニ付檢事氏名ノ意見ヲ聽キタル上治罪法第百八十五條ニ若シ證人同行スルヿヲ肯セサル時ハ第百七十六條ノ規則ニ從ヒ罰金ヲ言渡ス可シトアルニ依リ治罪法第百七十六條ニ證人呼出ニ應セサルキハ檢事ノ意見ヲ聽キ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ヲ言渡ス可シトアルニ照シ罰金四圓ニ處スル者也

某年　月日　某所ニ於テ

豫審判事　氏　名印
書記　氏　名印

○證人出廷シ旅費日當ヲ要メタルキ言渡書式

言渡書

何府縣何國何區郡何町村職業氏名ハ何府縣何國何區郡何町村身分職業氏名ハ何々一件ニ付證人トシテ呼出サレタルニ付旅費日當金若干其他日稼ヲ以テ生業トスル趣ヲ以テ其稼

○治罪法第百九十條證人ハ即時ニ出廷ニ付テノ旅費日當

ヲ要ムルヿヲ得

若シ日稼ヲ以テ生業トスル者ナル時ハ旅費日當外日稼高ニ等シキ償金ヲ要ムルヿヲ得

本條ノ場合ニ於テハ豫審判事其金額ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ

高ニ等シキ償金若干圓ヲ要求スル處右ハ（何々ノ理由ニ因リ節減シ（事實相違無之ト認定スルヲ以テ要求ノ通リ）過當ナルニテ）金若干圓下渡ス者也

年號何年月日某所ニ於テ

豫審判事　氏　名印

書記　氏　名印

○治罪法第百九十八條鑑定人ハ鑑定書ヲ作リ其手續結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記ス可シ

若シ結果ヲ得サル時ハ其推測スル所ヲ記載ス可シ

鑑定人意見ヲ異ニスル時ハ各自鑑定書ヲ作リ又ハ各自ノ意見ヲ一箇ノ鑑定書ニ記載ス可シ

同第百九十九條鑑定人ハ鑑定書ニ年月日ヲ記載シ署名捺印及ヒ契印ス可シ

又鑑定書ニハ豫審判事之ヲ受取リタル年月日ヲ記載シ書記ト共ニ檢

鑑定書ノ式

（鑑定書タルヤ鑑定人ヨリ差出スモノナレハ強テ一定セシメ難シ依テ其略式ヲ示スノミ）

鑑定書

自分（自分共）何住所何某何々事件ニ付何々（何某ノ創傷又ハ何々ノ書類又ハ印影又ハ毒藥等ヲ云フ）ノ鑑定ヲ爲ス可キヿヲ命セラレタルニ由リ左ノ如ク鑑定ス

一何々（鑑定ノ手續ヲ記ス）シタル處何々（理由ヲ記ス）ナルニ付何々（結果ヲ記ス）ナルヿ明白ナリ（何々結果ヲ得ル能サルヿナリト推測ス）

一右鑑定ハ本日午前何時ヨリ始メ午後何時ニ終レリ

右之通相違無之候以上

年月日

住所職業

氏　名印

右鑑定書ハ年號月日之ヲ受取ルモノナリ　豫審判事檢印　記書檢印

（公判ノ鑑定書モ亦之ニ準ス但シ年月日之ヲ受取ルモノナリトアル下ニ判事書記檢印ス可シ）

印ス可シ」鑑定書ハ命令書ニ添置ク可シ」外國人鑑定ヲ爲シタル時ハ其鑑定書ニ裁判所ヨリ命シタル通事ノ作リタル譯本ヲ添置ク可シ

○治罪法第二百一條豫審判事ハ檢事ヨリ先ニ現行ノ重罪輕罪アルヿヲ知リタル場合ニ於テ其事件急速ヲ要スル時ハ檢事ノ請求ヲ待タス

○現行犯ノ重輕罪アルヿヲ知リ急速ヲ要スル場合ニ於テ豫審判事ヨリ檢事ヘノ通知書ノ式

通知書

住所職業氏名ハ明治何年何月日某地ニ於テ何々ノ罪ヲ犯シ其犯罪タルヤ現行犯ニシテ急速ヲ要スルヲ以テ直ニ豫審ニ取掛候此段及通知候也

年號月日時某裁判所ニ於テ

豫審判事　氏　名印

某裁判所

檢事氏名殿

直チニ其旨ヲ通知シ豫審ニ取掛ルヿヲ得

豫審判事ハ犯所ニ臨檢シ令狀ヲ發シ其他此章ニ定メタル規則ニ從ヒ豫審ノ處分ヲ爲スヿヲ得

○治罪法第二百七條豫審判事ハ二十四時內ニ被告人ヲ訊問ス可シ此場合ニ於テハ檢事ノ發シタル勾留狀ヲ解キ又ハ之ヲ存スルヿヲ得

○檢事ヨリ發シタル拘留狀ヲ解ク時ノ言渡書式

言渡書

住所職業氏名ハ何々事件ニ付何年何月何日檢事ヨリ拘留シタル處右ハ拘留ス可キモノニアラスト思料スルニ付該令狀ヲ解クモノ也

何年何月日時何裁判所ニ於テ

豫審判事　氏　名印

書記　氏　名印

○治罪法第二百十五條 保証金ヲ沒入スルニハ檢事ノ意見ヲ聽キ豫審判事其言渡ヲ爲ス可シ」若シ他人ノ保証ニ係ル時ハ民事ノ規則ニ從ヒ之ヲ徵收ス可シ

○保釋金沒入幷ニ保釋取消ノ言渡書式

言渡書

住所身分職業氏名儀何々事件ニ付拘留(收監)中保釋差許シ置ク處何年月日時當某裁判所ニ出廷ス可キノ呼出ヲ受ケ正當ノ事故ナクシテ出廷セサルヲ以テ檢事ノ意見ヲ聞キ治罪法第貳百拾四條第貳百拾六條ニ依リ其保証金何拾何圓(若シ幾分ヲ沒入スル片ハ何拾何圓何拾錢ト記ス)沒入ノ上保釋ノ言渡ヲ取消スモノ也

年號月日時某裁判所ニ於テ

豫審判事 氏名印

書記 氏名印

同第二百十六條第一項豫審判事保証金ヲ沒入シタル時ハ保釋ノ言渡ヲ取消ス可シ

○治罪法第二百十六條第二項又豫審中保釋ノ言渡ヲ取消スヿヲ必要ナリトスル時ハ檢事ノ意見ヲ聽キ其言渡ヲ取消ス可シ

○豫審中保釋ノ言渡ヲ取消ス言渡書ノ式

言渡書

何府縣何國何町村番地身分職業氏名ハ曾テ其請求ニ依リ保釋差許置キタル處必要ノ廉有之ニ付檢事ノ意見ヲ聽キ右保釋ノ言渡ハ取消スモノ也

年月日某裁判所ニ於テ

豫審判事 氏名印

書記 氏名印

○被告人ヲ責付スルニ付其親屬又ハ故舊ヲ呼出ス呼出狀ノ式

第何號

呼出狀

何住所何職業氏名儀何府縣何國何區郡何町村何某責付ノ事柄

アルト否トヲ問ハス檢事ノ意見ヲ聽キ被告人ヲ其親屬又ハ故舊ニ責付スルヿヲ得

ニ付達ノ筋有之候條何年月日午前後何時當某裁判所ニ可罷出者也

何年月日何日某裁判所ニ於テ

豫審判事　氏　名印

本狀ハ使丁ヲシテ送達セシムル者也

何年月日何日時某裁判所ニ於テ

書記　氏　名印

年號何年何月何日何時某所ニ於テ一通ヲ氏名ニ渡シ各自此ニ署名捺印シタリ

年月日時某所ニ於テ

使丁　氏　名印

受取人　氏　名印

（本人ニ渡スヿヲ得サル塲合其住所ニ於テ同居ノ親屬又ハ雇人ニ渡ス時ハ）年號月日時本狀ヲ送達スルタメ某氏名ノ宅ニ赴キタレトモ同人不在ニ付同居ノ親屬（雇人）何某ニ渡シ各自此ニ署名捺印シタリ

（或ハ之ニ署名捺印セシメタルニ何々ニ付署名捺印スルヿ能ハサル旨ヲ述フルニ付本職ノミ此ニ署名捺印シタリ

年月日時某所ニ於テ

使丁　氏　名印

何某同居ノ父（其他親屬雇人）

受取人　氏　名印

（本狀ヲ送達スル爲メ某地氏名ノ宅ニ赴キタレトモ本人ハ不在且ツ同居ノ妻某ハ之ヲ受取ルヿヲ肯セサルニ付其地ノ戶長何某ニ渡シタリ　戶長認印

年月日時某地ニ於テ

使丁　氏　名印

太政官布告

○第二十七號　明治十五年六月三日

明治十三年(四月)第十二號布告集會條例左ノ通改正追加シ同年(十二月)第五十六號布告ヲ廢止ス

第二條　政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ結社(何等ノ名義ヲ以テスルモ其實政治ニ關スル事項ニ講談論議スル爲メ結合スルモノヲ併稱ス)スル者ハ結社前其社名社則會場及ヒ社員名簿ヲ管轄警察署ニ屆出テ其認可ヲ受クヘシ其社則ヲ改正シ及ヒ社員ノ出入アリタルトキモ同樣タルヘシ此屆出ヲ爲スニ當リ警察署ヨリ尋問スルコトアレハ社中ノ事ハ何事タリトモ之ニ答辨スヘシ

前項ノ結社及其他ノ結社ニ於テ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メニ集會ヲ爲サントスルトキハ仍ホ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條　管轄警察署ハ第一條第二條第三條ノ屆出ニ於テ治安ニ妨害アリト認ムルトキハ之ヲ認可セス又ハ認可スルノ後ト雖モ之ヲ取消スコトアルヘシ

第五條　二項

警察官會場ニ入ルトキハ其求ムル所ノ席ヲ供シ且其尋問アルトキハ結社集會ニ關スル事ハ何事タリトモ之ニ答辨スヘシ

第六條　二項

前項ノ場合ニ於テ解散ヲ命シタルトキ地方長官(東京ハ警視長官)ハ其情狀ニ依リ演說者ニ對シ一個年以內管轄內ニ於テ公然政治ヲ講談論議スルヲ禁止シ其結

社ニ係ルモノハ仍ホ之ヲ解社セシムルコトヲ得内務卿ハ其情狀ニ依リ更ニ其演說者ニ對シ一個年以内全國内ニ於テ公然政治ヲ講談論議スルヲ禁止スルコトヲ得

第八條　政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ其旨趣ヲ廣告シ又ハ委員若クハ文書ヲ發シテ公衆ヲ誘導シ又ハ支社ヲ置キ若クハ他ノ社ト連結通信スルコトヲ得ス

第十一條　第二條第一項ノ規程ニ背キテ屆出ヲ爲サス又ハ尋問スル所ノ事項ヲ開答セサルトキ社長ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處シ詐欺ノ屆出ヲ爲シ或ハ尋問ヲ得テ僞答スルトキ社長ハ右罰金ノ外尙ホ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十二條　第五條ノ規程ニ背キ派出警察官ノ臨席ヲ肯セス又ハ其求ムル所ノ席ヲ供セサルトキ會主會長及社長幹事ハ各五圓以上五十圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ警察官ノ尋問ニ答ヘス又ハ僞答スル者ハ同罪ニ處ス再犯ニ當ル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十六條　學術會其他何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラス多衆集會スル者警察官ニ於テ治安ヲ保持スルニ必要ナリト認ムルトキハ之ニ監臨スルコトヲ得若シ其監臨ヲ肯セサルトキハ第十二條ニ依テ處分ス

學術會ニシテ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スルコトアルトキハ第十條ニ依テ處分ス

第十七條　前條ノ場合ニ於テ治安ヲ妨害スト認ムルトキハ第六條ニ依テ處分ス

第十八條　凡ソ結社若クハ集會スル者內務卿ニ於テ治安ニ妨害アリト認ムルトキハ之ヲ禁止スルヿヲ得若シ禁止ノ命ニ從ハス又ハ仍ホ秘密ニ結社若クハ集會スル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第十九條　成法ニ制定スル所ノ集會ハ此限ニ在ラス

○第三十一號　明治十五年六月二十三日

虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶檢査規則左ノ通制定ス

虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶檢査規則

第一條　凡ソ虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶ハ檢疫官ノ檢査ヲ受ケ其記名セル許可ノ證書ヲ得タル後ニ非ソハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乘組人船客ノ上陸並ニ積荷ノ陸揚ヲ爲スヿ可カラス

第二條　其船中該病患者又ハ該病死者ナキトキハ檢疫官直ニ其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及乘組人船客ノ上陸並積荷ノ陸揚ヲ爲スノ許可ヲ與フヿ可シ

第三條　若シ其船中ニ該病患者又ハ該病死者アルトキハ檢疫官其船舶ヲ陸地及ヒ他船ニ傳染ノ虞ナシト認ムル距離ニ於テ其指定スル場所ニ碇泊セシムヿ可シ

該病患者ハ之ヲ避病院若クハ其住居若クハ其他檢疫官ノ適當ト認ムル場所ニ送致スヿ可シ其死者ハ(若シ緣故人ノ望アルトキハ其望ニ隨ヒ)地方官所定ノ場所ニ火葬シ若クハ十分ノ消毒法ヲ施シタル後之ヲ埋葬スヘシ

前項ノ手續ヲ終リ檢疫官ハ其乘組人船客ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後上陸ノ許可ヲ與ヘ其船舶及傳染ノ虞アリト認ムル積荷ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及積荷ヲ陸揚スルノ許可ヲ與フ可シ

第四條　此規則ニ違背シタル者若シクハ此規則ノ執行ヲ妨害シタル者ハ刑法ニ依テ之ヲ處分スヘシ

第五條　此規則施行始終ノ期日並ニ場所ハ其都度內務卿ヨリ之ヲ指定ス可シ

○刑法第二百四十六條傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シテ入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

同第二百四拾七條船長自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯スヿヲ知テ制セサル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ加フ

○司法省布達

○丙第二十一號　明治十五年六月十日

被告事件重罪ナル時ト雖モ法律上ノ減輕ニ因リ輕罪以下ノ刑ニ處ス可キ者ハ總テ輕罪裁判所ノ管轄ニ屬スル義ト心得ヘシ此旨相達候事

丙第廿二號　明治十五年六月十二日

治罪法第九十六條ニ從ヒ告發シタル官吏ヲ証人トシテ公庭ヘ呼出ス時ハ本年本省內第十號達ニ準シ處分スル儀ト心得可シ此旨相達候事

但巡査及ヒ等外吏ハ此限ニアラス

○丁第三十三號　明治十五年六月十三日

審理ノ都合ニ依リ檢證ノ爲メ囚人召連他所出張候節ハ其地ノ警察官ヘ護送引致方通知可致尤右護送ニ屬スル

○丙第十號百六十丁參看

費用ハ渾テ警察費ヨリ支辨之筈ニ候條此旨相達候事

○丙第廿四號　明治十五年六月二十六日

犯罪ノ用ニ供シ又ハ犯罪ニ因リ得タル物件ハ轉輾シテ他人ノ手ニ在リ及ヒ沒スヘキモノ若クハ證憑ノ爲メ官ニ保存シ置クヲ必要トスルモノヲ除クノ外ハ裁判官檢察官司法警察官ニ於テ實際ノ便宜ニ因リ裁判官渡アル迄其所有主ヘ假ニ之ヲ下渡シ置クヿヲ得ヘシ此旨爲心得相達候事

○丁第三十四號　明治十五年六月二十六日

明治十四年丁第二十六號ヲ以テ相達置候使丁規則第九條幷ニ第十一條左ノ通リ改正候條此旨相達候事

第九條　送達賃錢ハ地方ノ便否ニ從ヒ書記局ニ於テ適宜其定限ヲ立ツ可シ(但送達書ニ賃錢ノ高ヲ附記ス可シ)

第十一條　刑事ニ付テノ送達賃錢ハ其送達ヲ受ル者ニ之ヲ拂フ可シ

○丙第二十五號　明治十五年六月二十九日

刑法治罪法實施以來刑事ニ付出庭セシメタル証人鑑定人等ノ旅費日當等一時官廳ニ於テ立換渡ヲ爲シ候儀モ有之候處該旅費日當等ハ則裁判費用ニシテ總テ被告人ノ擔當スヘキモノナルハ勿論ノ儀ニ付自今右立換渡ヲ爲スニ不及儀ト心得ベシ此旨相達候事

但シ從前ノ指令及ヒ內訓本文ニ抵觸スル件々ハ都テ取消候事

○六月廿四日司法卿ヨリノ達

本年三月第十七號公布ヲ以テ酒造稅則第三十二條但書

○四十二丁看參

刪除相成タルハ酖醪ノ類ト雖モ稅則第二條類別內ノ酒類ナルヿ勿論ニ付故ラニ但書ヲ以テ指示スルニ及ハサルトノ趣旨ニシテ右ニ關スル犯則者ハ稅則各本條ニ依リ處分スヘキ義ニ候處間々誤解ノ向モ有之趣ニ付爲念此旨及內諭候也

○六月廿九日

府縣警部等ヨリ檢察事務上ノ伺ニ付今般別紙之通府知事縣令ヘ及通達候條此段申進候也

警部長以下事務上ニ關シ直ニ當省ヘ伺書差出シ候向モ有之候處右伺書ハ都テ貴官ヲ經由シ檢察事務上ニ付テハ所轄始審裁判所檢事ヲ經由シテ伺出候樣御達相成度此段司法卿ノ命ニ據リ及御通牒候也

○內務省布達

○乙第三十五號　明治十五年六月五日

裁判所ニ於テ檢證ノ爲メ囚人ヲ召連レ他所出張ノ節ハ巡査ヲシテ護送セシムヘシ此旨相達候事

但護送巡査ノ旅費其他囚人ニ屬スル費用共渾テ警察費ヨリ支辨スヘシ

○同省ヨリ警視廳ヘ訓示

凡ソ監視ニ附セラレシ犯人ノ住處遠地ニ在テ一日程ヲ過クル者ハ典獄若クハ檢察官ヨリ最近ノ警察署ヘ護送シ來ルヒハ刑法附則第廿五條ノ手續ニ依ル可キ處中ニ警察傳遞ヲ以テ送致スル向モ有之哉ニ相聞ヘ右ハ刑法附則ノ成文ニ背キ且費用ニモ差響候義ニ付右等ノ義無之樣可致爲念此旨訓示候也

○七丁目參看

○監獄則第十一條入監ノ婦女乳兒（三歳未滿）ヲ携帶セント請フ者アルトキハ之ヲ許ス

○警視廳ヨリ内務省ヘ伺幷指令

入監ノ婦女三歳未滿ノ乳兒ヲ携帶セント請フ者アル時ハ許可候義監獄則第十一條ニ明文有之候得トモ携兒三歳以上ニシテ入監ノ節依托スヘキ親屬等無之俱ニ入監セントヲ請フトキハ典獄ヨリ該兒ヲ本人原籍地ノ府縣ニ係リ東京府下ニ定リタル住居無之者ハ本人拘引ヲ受ケシ地ノ區戸長ニ引渡可然哉此段相伺候也

〔指令〕伺之通

○陸軍卿ヨリ達

明治十年達乙第八十五號ヲ以テ徒刑人戒役人休役スル者償役ノ儀相達置候處新刑法實施後ハ勿論舊法ニ處シタル者モ總テ償役セシメサル儀ト可相心得此旨相達候事

○海軍省ヨリ太政官ヘ伺幷指令

今般海軍下士以下懲罰則御改正相成候ニ付テハ右取扱手續制定不致候テハ差支候ニ付今般別紙ノ通相定施行致度右ハ目下差支候儀モ有之ニ付至急御允許有之度此旨相伺候也

〔指令〕伺之趣聞屆候事

〔別紙〕海軍下士以下懲罰則取扱手續

第一條　此罰則ヲ犯シタル者アル時其申告ヲ爲ス者ハ犯者所屬ノ分隊長若クハ當直士官若クハ衛兵士官ヲ經由シテ之ヲ爲ス可シ

第二條　艦船營長若クハ委任ヲ受ケタル衛兵士官以上若クハ艦船營ノ副長ハ前條ノ申告ヲ受ケ又ハ自ラ犯則者アルコトヲ認知シタル時ハ審問ヲ爲シ事實相違ナキニ於テハ此罰則ニ照シ處斷スヘシ

第三條　犯則者ヲ處斷スルニハ言渡書ヲ作リ艦船營ニ在テハ分隊長屯集所ニ在テハ士官ヲシテ之ヲ宣讀セシム其宣讀ニ當リ艦船營長若クハ委任ヲ受ケタル衛兵士官以上ノ意見ヲ以テ兵員ヲ整列セシムルヿアル可シ

第四條　此罰則ニ依リ處斷セラレタル者アル時ハ其罪狀罰名ヲ其府艦船營ノ履歷簿行狀簿及ヒ本人ノ手牒ニ記載スベシ

○陸軍裁判所ヨリ本省ヘ伺并指令

從來ノ終身懲役又ハ無期徒刑ノ囚徒更ニ重罪(死刑ヲ除ク)ヲ犯シタル時地方法衙ニ在テハ監獄則ニ依リ處分スル制規ニ有之候處陸軍ニ於テハ夫等ノ御制定モ無之候得共陸軍囚獄ニ在ル終身懲役ノ囚徒更ニ重罪ヲ犯シタ

○陸軍刑法第十一條豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ召集中ノ外此刑法ニ依テ處斷スルヿヲ得ス但此刑法ニ特例アル者ハ此限ニ在ラス

ルトキハ地方法衙同樣該囚獄(乃チ陸軍囚獄)ノ處分ニ附シ候義ト相心得可然哉此段相伺候也

〔指令〕伺之趣從前ノ通其所ニ於テ處分可致候事

○東京鎮臺ヨリ陸軍省ヘ伺并指令

豫備後備軍籍ニ在ル者召集中ノ外陸軍刑法ヲ以テ論セサル旨ハ同法第十一條ノ通候間其鄉里ニ在テ犯罪アルトキハ總テ普通刑法ニ依テ處分可相成ハ當然之事ニ可有之故ニ其重罪ノ刑ニ當ル者ハ兩刑法共ニ終身間公權ヲ剝奪セラルヽニ付平戰兩時共召集スヘカラサル如キ樣ニモ被存候然ルニ又陸軍刑法第三十三條三十四條ノ權衡ヨリ推ストキハ又召集スヘキ樣被察候右ハ果シテ如何相心得可然哉其區域御明示被下度此段相伺候也

〔指令〕伺之趣公權停止中ハ召集セサル儀ト可相心得事

治罪法第二百廿條豫審判事ハ被告事件其管轄ニ非ストシ又ハ他ニ取調ヲ要スルヲナシト思料シタル時ハ豫審終結ノ處分ニ付キ檢事ノ意見ヲ求ムル爲メ一切ノ訴訟書類ヲ送致ス可シ」檢事ハ訴訟書類ニ意見ヲ付シ三日内ニ之ヲ還付ス可シ

○檢事ヘ照會書式

照會書

何府縣管轄ノ儀ニ付御意見承知致シ度依テ一切ノ訴訟書何國何郡何區何町何村何番地職業氏名何々犯罪事件ヲ云フ竊盜强盜ノ類事件取調濟類及送致候也

年月日某裁判所ニ於テ

豫審判事　氏　名印

書記　氏　名印

某裁判所

檢事氏名殿

○被告人ノ陳述書又ハ豫審終結ノ言渡書又ハ裁判言渡書ノ謄本式

本文

右正本ニ依リ謄寫スル所相違無之モノ也

年月日某裁判所ニ於テ

書記　氏　名印

〔裁判言渡書モ本文ニ準ス但シ「右正本ノ拔書ニ相違無之モノ也」ニ作ル可シ〕

○治罪法第百五十三條被告人ハ陳述書ノ謄本ヲ求ムルヲ得

同第二百三十條書記ハ速ニ豫審終結ノ言渡書ノ謄本ヲ檢事民事原告人及ヒ被告人ニ送達ス可シ但是等ノ者ハ第二百四十六條以下ノ規則ニ從ヒ其言渡ニ對シ故障ヲ爲スヲナ得

同第三百十五條訴訟關係人ハ其費用ヲ以テ裁判言渡書ノ謄本又ハ其拔書ヲ求ムルヲナ得但上訴ノ爲メ其求ヲ爲シタル時ハ書記ヨリ二十四時内ニ之ヲ下付ス可シ

○治罪法第

○書類ヲ送達スルニ付テノ添書式

二十二條此法律ニ於テ訴訟關係人ニ書類ヲ送達スルニ付キ別ニ規則アラサル時ハ書記其送達書ヲ作リ書記局所屬ノ使丁ヲシテ之ヲ送達セシム

若シ書類ノ送達ヲ受ク可キ者裁判所ノ管轄地外ニ在ル時ハ其地ノ裁判所ノ書記ニ送達ノ事ヲ囑託ス可シ

同第二十三條送達書ハ二通ヲ作リ其一通ヲ本人ニ渡ス可シ本人ニ渡スヿヲ得サル時ハ其住所ニ於テ同居ノ親屬又ハ雇人ニ渡ス

送達書二通ヲ要ス）

一書名（何某何々一件豫審終結ノ言渡書謄本或ハ何某何々一件欠席裁判言渡書ノ類）　何通

一同　何冊

右ハ使丁ナシテ住所氏名ニ送達セシムルモノ也

年月日時某裁判所ニ於テ　書記　氏　名印

年號何年何月何日何時某所ニ於テ一通ヲ氏名ニ渡シ各自此ニ署名捺印シタリ

年　月日　時某所ニ於テ　使丁　氏　名印

受取人　氏　名印

（本人ニ渡スヿヲ得サル塲合其住所ニ於テ同居ノ親屬又ハ雇人ニ渡ストキハ）年號月日時本書ヲ送達スル爲メ某地氏名ノ宅ニ赴キタレトモ同人不在ニ付同居ノ親屬（雇人）何某ニ渡シ各自此ニ署名捺印シタリ

（或ハ之ニ署名捺印セシメタルニ何々ニ付署名捺印スルヿ能ハサル旨ヲ述フルニ付本職ノミ此ニ署名捺印シタリ　三九

年月日時某所ニ於テ　使丁　氏　名印

何某同居ノ父（其他親屬）（雇人）

受取人　氏　名印

（本書ヲ送達スル爲某地氏名ノ宅ニ赴キタレトモ本人ハ不在且ツ同居ノ妻某ハ之ヲ受取ルヿヲ肯セサルニ付其地ノ戶長何某ヘ渡シタリ　戶長認印

年月日時某地ニ於テ　使丁　氏　名印

（又檢事ヘ送達スルトキハ左ノ如シ）

可シ

送達人ハ之ヲ受取リタル者ヲシテ其二通ニ署名捺印セシムヽ若シ署名捺印スルヿ能ハサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ

同居ノ親屬又ハ雇人ニ書類ヲ渡スヿヲ得ス若クハ是等ノ者之ヲ受取ルヿヲ肯セサル時ハ其地ノ戶長ニ渡置キ戶長ハ其書類ニ認印シ速ニ本人ニ送達スルノ處分ヲ爲ス可シ

送達人ハ書類ヲ受取リタル者ノ氏名場所及ヒ日時ヲ其二通ニ記載ス可シ

本條ノ規則ニ背キタル時ハ書類送達ノ効ナカル可シ

送達人ハ其一通ヲ書記局ニ還納シ書記局ニ於テハ送達ノ証トシテ之ヲ保存ス可シ

送達書

何冊

一書名　何通

一仝

右及送達候也

年月日時某裁判所ニ於テ

書記　氏名印

何裁判所

檢事氏名殿

○治罪法第二百五十二條會議局ニ於テハ第二百三十六條ノ規則ニ從ヒ故障ノ判決ヲ爲ス可シ

豫審判事ノ言渡ヲ認可シタル時ハ其旨ヲ言渡シ若シ其全部又ハ幾分

○會議局ニテ豫審終結ノ言渡ニ對スル故障ヲ判決シ豫審判事ノ言渡ヲ取消ス判決書ノ式

判決言渡書

某輕罪裁判所會議局ハ檢事氏名カ住所職業氏名ノ被告タル何々事件ニ付キ豫審判事氏名ニ於テ言渡セシ豫審終結ノ言渡ニ對シ爲シタル故障ノ申立ヲ受ケ其趣意書及ヒ被告人氏名ノ答辨書該檢事ノ意見書其他訴訟書類ニ依リ審案スル處右言渡ニ於テハ何々ノ証憑ニ依リ被告人ハ何々ノ事ヲ爲シタルモノト認メ刑法第何條ニ何々トアルニ依リ處斷スヘキモノトシテ某輕罪裁判所ニ移スト云フニ在リ夫レ被告人ノ所爲ハ豫審判事ノ明示スル證憑ニ依リ其言渡ノ如ク相違ナシト雖モ（以下幾分ヲ破毀ス）該所爲ハ刑法第何條ニ何々トアルヲ適用ス可キ重罪ニ

ヲ取消シタル時ハ全部ニ付キ更ニ言渡ヲ爲ス可シ

又被告人ヲ保釋責付シ又ハ勾留スルノ言渡ヲ爲スヿヲ得

シテ豫審判事カ指示シタル法律ハ全ク不適當ナルヲ以テ治罪法第貳百五拾貳條ニ依リ右ノ言渡ヲ取消シ更ニ此事件ヲ某重罪裁判所ニ移シ且ツ被告人氏名ノ保釋責付言渡ヲ取消シ其控訴裁判所檢事長ノ指揮アルマテ被告人ヲ當裁判所ノ監倉ニ留置スルモノ也

何年何月何日某裁判所會議局ニ於テ

判事　氏　名印

同

同

書記　氏　名印

〔被告人ニ送達スル言渡書ニハ本文ニ但書ヲ加ヘ〔此言渡ニ對シテハ上告ヲ爲スヿヲ得其期限ハ三日ナリトス〕ト記スヘシ〕

○豫審報告書式

報告書

住所職業

氏名

右之者何々〔竊盜又ハ毆打創傷ノ類〕一件御求ニ依リ〔豫審ヲ遂クル〕〔御指示ノ條件豫審ヲ遂クル〕處別紙何々〔調書等ノ類〕ノ通ニ付此段及報告候也

何年何月何日某裁判所ニ於テ

判事　氏　名印

書記　氏　名印

某輕罪裁判所會議局

判事御中

〔治罪法第三百五拾七條報告書式ハ之ニ準ス但本條ハ指示シタル條件ノミナルニ注意シ且ツ判事氏名ヲ豫審判

事氏名ニ作リ宛名ヲ某輕罪裁判所判事氏名殿ニ作ルヘシ

○故障取調中共犯ノ起訴ヲ受ケサル者アリタルトキ豫審ヲ爲サシメタル上其報告書等ニ依リ故障ト共ニ判決スル書式亦之ニ準ス〕（附帶ノ犯罪ヲ共ニ判決スル書式）

判決言渡書

某輕罪裁判所會議局ハ檢事氏名カ何縣何國何郡何村何業市川甲助ノ被告タル何々事件ニ付豫審判事氏名ニ於テ言渡セシ豫審終結ノ言渡ニ對シ爲シタル故障ノ申立ヲ受ケ其趣意書答辯書其他訴訟書類ニ依リ審案スルニ右ノ言渡ニ於テハ何々ノ證據ニ依リ被告人甲助ハ何年何月何日何所ニ於テ何々ノ事ヲ爲シタルモノトシテ刑法第何條ニ何々トアルニ依リ處斷スヘキモノト認メ某

○治罪法第二百五十五條會議局ニ於テ故障ノ取調中共犯ノ起訴ヲ受ケサル者アルヿヲ發見シタル時ハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ判事一名ヲシテ豫審ヲ爲シ其報告書ヲ差出サシムル可シ

檢事ハ意見書ヲ差出ス可シ

會議局ニ於テハ報告書其他訴訟書類ニ依リ故障ト共ニ之ヲ判決ス可シ

輕罪裁判所ヘ移スト云フニ在リ夫レ被告甲助カ何々ノ事ヲ爲シタルハ豫審判事カ其証憑ヲ明示セシ如ク相違ナキト雖モ其所爲タルヤ刑法第何條ニ何々トアルニ該ルヘキ重罪ニシテ且ツ同人ノミ犯シタルモノニアラス仁科乙助カ教唆ニ出タル何々ノ書類ニ依リ發見シタルヲ以テ檢事ノ請求ニ又依リ（又ハ職權ヲ以テ）豫審ヲ爲シ乙助ヲモ取調サセタル上其報告書其他訴訟書類ニ依リ更ニ審案スル處甲助カ何々ノ罪ヲ犯シタルハ乙助ノ教唆ニ因リタルヿ何々ノ証據ニ依リ明白ナリトス而メ右ハ刑法第何條ニ何々第何條ニ何々トアルヲ適用スヘキモノニシテ豫審判事氏名カ指示シタル法律ハ全ク不適當ナルヲ以テ治罪法第貳百五拾貳條ニ照シ何豫審判事カ本件ニ付キ爲シタル豫審終結ノ言渡ヲ取消シ更ニ此事

件ヲ某重罪裁判所ニ移シ且ツ某控訴裁判所檢事長ノ指揮アルマヲ甲助乙助ヲ當裁判所ノ監倉ニ留置スルモノ也

何年何月何日某裁判所會議局ニ於テ

判事　氏　名印

同

同

書記　氏　名印

○治罪法第二百五十九條第三百十一條ヨリ第三百十三條マテノ規則ハ豫審ノ上訴ニ付テモ亦之ヲ適用ス

同第三十日二條訴訟關係人又ハ其代人非常ノ變災厄難ニ因リ上訴期限ヲ經過シタル場合ニ於テ其旨ヲ証明シタルトキハ期限ヲ經過シタルモノ也

（被告人ニ送達スヘキ言渡書ニハ左ノ但書ヲ加フヘシ）

但此言渡ニ對シテハ上告ヲ爲スヿヲ得其期限ハ三日ナリトス

○豫審上訴ニ付會議局ニ於テ受理スヘキヤ否ヲ判決スル判決書ノ式

判決書

某輕罪裁判所會議局ハ何府縣何國何區何郡何町村何番地何職業氏名カ其被告タル何事件ニ付キ年號何年何月何日豫審判事何某ニ於テ某輕罪裁判所ニ移ス旨ヲ言渡サレタレ共其言渡ハ何々ニ付キ不服ナル旨ノ故障申立ヲ受ケ其書類及ヒ氏名カ其故障ノ期限ヲ輕過シタルハ何々ノ事由ナル旨ヲ証明スル爲メ差出シタルハ何々ノ書面及ヒ檢事何某ノ答辨書ヲ熟閲シ尚ホ該檢事ノ意見ヲ聽キ右故障ノ申立ハ受理スヘキヤ否ヤヲ審案スルニ被告人氏名ハ治罪法第貳百四拾七條ニ掲ケタル故障ノ期限ヲ經過シタルモ何々ノ天災（厄難）ニ原因セシヿ何々ノ書面ニ依リ明白ナルヲ以テ治罪法第三百拾貳條ニ訴訟關係人又ハ其代人非常ノ變災厄難ニ因リ上訴期限ヲ經過シタル場合ニ於テ其旨ヲ証明シタルトキハ期限ヲ經過シタルヿ因ニ其証據

ヲ申立書ニ添ヘ上訴ヲ爲ス可シ

同第三百十三條第二項上訴ヲ判決ス可キ裁判所ニ於テハ會議局ニテ檢察官ノ意見ヲ聽キ先ツ其上訴ヲ受理ス可キヤ否ヤ判決ス可シ

リ失ヒタル權利ヲ回復スルヿヲ得ルトアルニ照シ右故障ノ申立ハ之ヲ受理スル者也

年號　　裁判所會議局ニ於テ

判事　氏名印

同

同

書記　氏名印

（受理セサル判決書ハ之ニ準ス）

（公判上訴ノ判決書モ亦之ニ準ス）

○治罪法第二百六十一條豫審ニ於テ被告人免訴ノ言渡ヲ受ケ其言渡確定シタル時ハ罪名ノ變更アルモ同一ノ事件ニ付キ更ニ訴ヲ受クルヿナカル可シ但新ナル証憑アル時

○會議局ニ於テ爲ス檢事ノ起訴ヲ許スヘキヤ否ヤノ判決書式

判決書

某輕罪裁判所會議局ハ檢事氏名カ何縣何國何郡何村何番地何業何某ノ被告人ヲル何々事件ニ付年號何年何月何日豫審判事氏名ニ於テ犯罪ノ證憑充分ナラサルヲ以テ免訴スル旨ヲ言渡サレタレトモ爾來新ナル証憑ヲ發見シタルヲ以テ之ヲ當會議局ニ差出シ起訴ノ判決ヲ求ムル旨ノ申立テヲ受ケ發キノ豫審書類ヲモ熟閲シ審案スル處該証憑ハ何々ニ付（新ナル證憑ト爲スニ足ラサルヲ以テ檢事ノ起訴ヲ差許サヽル）新ナル證憑ト爲スニ充分ナル者也（新ナル事ノ起訴ヲ差許ス）

年號何年何月何日某裁判所會議局ニ於テ

判事　氏名印

ハ此限ニ在ラス

新ナル証憑アル時ハ檢事ヨリ之ヲ會議局ニ差出シ會議局ニ於テハ其起訴ヲ許ス可キヤ否ヤヲ判決ス可シ

○訴訟關係人檢事及ヒ監獄ニ在ル被告人ヲ除ク（證人）（鑑定人等）着到屆ノ式

判事　氏名印

同

書記　氏名印

掛リ氏　某府縣某國某區郡某村町何番地

職業　氏名

何年何月何日午前後何時出頭

豫審班數表ノ式（告訴告發班數表モ之ニ準ス）

年號何年

豫審班數表

某輕罪裁判所

年號何年何月班數

○某判事

○○○某判事

○○某判事補

○治罪法第百四十條豫審判事ハ重罪輕罪ニ付キ直チニ告訴又ハ告發ヲ受ケタル時ハ召喚狀

年號何年何月班彰

○○○某書記
○○○某書記
○○某書記

○豫審判事告訴告發ヲ受ケ被告人ヲ喚問シタル上引續キ取調ヲナス可キ者ト思料シタル時檢事ニ送致スル文書ノ式

送致書

何住所何某ヨリ何住所職業何某カ何々ノ罪ヲ犯シタル旨告訴ニ及ヒタルニ付被告人何某召喚ノ上訊問候處引續取調フ可キ者ト思料候條右事件及送致候也

年月日某裁判所ニ於テ

豫審判事　氏　名印

某裁判所

檢事氏名殿

ヲ以テ被告人ヲ呼出シ之ヲ訊問スルヲヲ得若シ引續キ取調ヲ爲ス可キ者ト思料シタル時ハ其事件ヲ檢事ニ送致ス可シ

○治罪法第百八十一條左ニ記載シタル者ハ証人ト爲ルヲ許サス但事實參考ノ爲メ其陳述

○參考人呼出狀書式

第何號呼出狀

何縣何國何郡區何村町何番地何職業氏名儀何縣何國何郡區何村町何某ノ何々事件ニ付事實參考ノ爲メ訊問ノ儀有之候條何年何月何日午前後何時當裁判所ヘ可罷出者也

何年何月日某裁判所ニ於テ

豫審判事　氏　名印

ヲ聽クヿヲ得

一民事原告人

二民事原告人及ヒ被告人ノ親屬

三民事原告人及ヒ被告人ノ後見人又ハ是等ノ者ノ後見ヲ受クル者

四民事原告人及ヒ被告人ノ雇人

本條ハ使丁ヲシテ送達セシムル者ナリ

何年何月日時某裁判所ニ於テ

書記　氏名印

（公判ニ付テノ參考人呼出モ亦之ニ準ス但シ何年何月日）某裁判所ニ於テ豫審判事氏名印ヲ除クヘシ）

年號何年何月何日何時某所ニ於テ一通ヲ氏名ニ渡シ各自此ニ署名捺印シタリ

年月日時某所ニ於テ

使丁　氏名印

受取人　氏名印

（本人ニ渡スヿヲ得サル場合其住所ニ於テ同居ノ親屬又ハ雇人ニ渡ストキハ）年號月日時本狀ヲ送達スル爲メ某地氏名ノ宅ニ趣キタルトキ同人不在ニ付同居ノ親屬（雇人）何某ニ渡シ各自此ニ署名捺印シタリ

（或ハ之ニ署名捺印セシメタルニ何々ニ付署名捺印スルヿ能ハサル旨ヲ述フルニ付本職ノミ此ニ署名捺印シタリ）

年月日時某所ニ於テ

使丁　氏名

何某同居ノ父（其他親屬雇人）

受取人　氏名印

（本狀ヲ送達スル爲メ某地氏名ノ宅ニ赴キタレトモ本人ハ不在且ツ同居ノ妻某ハ之ヲ受取ルヿヲ肯セサルニ付其地ノ戸長何某ヘ渡シタリ　戸長認印）

年月日時某地ニ於テ

使丁　氏名印

○保釋證書ノ式

保釋証書

○治罪法第

二百十條第一項豫審判事ハ豫審中勾留狀又ハ收監狀ヲ受ケタル被告人ノ請求ニ因リ檢事ノ意見ヲ聽キ何時ニテモ呼出ニ應シ出庭ス可キノ証書ヲ差出サシメ保釋ヲ許スヿヲ得

自分儀(又ハ何所何某儀)今般保釋願上候ニ付御差許相成候上ハ何時ニテモ御呼出ニ應シ出廷可(爲致候依テ証書差上候也

(或ハ何某親屬代人)
住所
願人　氏名印
何年何月何日
某裁判所
豫審判事何某殿

○治罪法第二百十三條二項又裁判所ノ管轄地內ニ住シ且ツ充分ノ資力アル者ヨリ差出ス保証書ノ式

保証書

何府縣何國何郡何區何町何村何番地身分職業何某儀今般保釋願上御許可相成候ニ付保証金何拾圓何拾錢ハ何時ニテモ自分ヨリ完納可仕此段保証仕候也

何國何郡何村何番地職業
氏名
自署

年號何年何月何日

何裁判所
豫審判事氏名殿

○公判件數錄ノ式

付受	明治何年何月何日
番號	第何號
掛官	判事 氏名 書事 氏名
件名	竊盜
在檻	明治何年何月何日
責付	同
保釋	同
言渡	同
證憑物件	何品 何々
幾点	何々

被告人
住所身分
職業
氏名
年齢

表紙

明治何年何月何日ヨリ
公判件數錄
某輕罪裁判所

○治罪法第二百六十二條訴訟事件ハ書記局ノ簿冊ニ登記シタル順序ニ從ヒ之ヲ公判ニ付ス可シ

裁判所長ハ未決勾留ノ日數ヲ減縮スル爲メ職權ヲ以テ其順序ヲ變更スルヿヲ得

公判班數表式

年號何年
公判班數表
某輕罪裁判何

年號何年何月班數
○某判事 ○○某判事 ○○某判事補

又重要ナル事由ノ爲メ檢察官其他訴訟關係人ノ請求アリタル時モ亦順序ヲ變更スルヿヲ得

年號何年何月班數	
	○○○某判事
	○○○○某判事
	○○某判事補

年號何年何月班數	
	○○○某書記
	○○○○某判事
	○○某書記

○治罪法第二百六十四條被告事件公安ヲ害シ又ハ猥褻ニ渉リ風俗ヲ害スルノ恐アル時ハ裁判所ニ於テ檢察官ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其訊問及ヒ辨論ノ傍聽ヲ禁スルヿヲ得其裁判言渡ヲ爲スニ當テハ傍聽ヲ許ス可シ

○訊問及ヒ辨論ノ傍聽ヲ禁スル言渡書式

言渡書

住所職業氏名ガ被告タル何々事件公安ヲ害スルノ風俗ヲ害スルノ恐アルニ付治罪法第貳百六拾四條ニ依リ訊問及ヒ辨論ノ傍聽ヲ禁スルモノ也

年月日某裁判所ニ於テ檢事氏名出廷ノ上言渡ス

判事　氏　名印

書記　氏　名印

傍聽禁牌ノ式

○傍聽ヲ禁ス

又重要ナル事由ノ爲メ檢察官其他訴訟關係人ノ請求アリタル時モ亦順序ヲ變更スルヿヲ得

年號何年何月班數	
	○○○某判事
	○○○○某判事
	○○某判事補

年號何年何月班數	
	○○○某書記
	○○○○某判事
	○○某書記

○治罪法第二百六十四條被告事件公安ヲ害シ又ハ猥褻ニ渉リ風俗ヲ害スルノ恐アル時ハ裁判所ニ於テ檢察官ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其訊問及ヒ辨論ノ傍聽ヲ禁スルヿヲ得其裁判言渡ヲ爲スニ當テハ傍聽ヲ許ス可シ

○訊問及ヒ辨論ノ傍聽ヲ禁スル言渡書式

言渡書

住所職業氏名カ被告タル何々事件公安ヲ害スルノ恐アルニ付治罪法第貳百六拾四條ニ依リ訊問及ヒ辨論ノ傍聽ヲ禁スルモノ也

年月日某裁判所ニ於テ檢事氏名出廷ノ上言渡ス

判事　氏　名印

書記　氏　名印

傍聽禁牌ノ式

○傍聽ヲ禁ス

○治罪法第二百六十六條被告人ハ辨論ノ爲メ辨護人ヲ用フルヿヲ得辨護人ハ裁判所々属ノ代言人中ヨリ之ヲ選任ス可シ但裁判所ノ允許ヲ得タル時ハ代言人ニ非サル者ト雖モ辨護人ト爲スヿヲ得

○被告人ヨリ辨護人ヲ届出又ハ允許ヲ請フ書式

願書（又ハ届書）

自分儀此度何々ノ事件ニ付公訴ヲ受ケ候ニ付テハ（若シ届書ナルトキハ此所ヘ「當御裁判所々属代言人」ノ字ヲ加フ）（若シ届書ナルトキハ職業ヲ記スルヲ要セサルヘシ）何府何縣何國何區何郡何町何村職業何某ヲ以テ辨護人ト相定メ度候間此段御允許被下候樣奉願候也（若シ届書ナレハ相定度ノ段ノ下「御届申上候也」ト作ルヘシ）

年月日

何府縣何國何區何郡何町何村何番地
職業
氏名

某裁判所
判事氏名殿

若シ願書ナレハ二通ヲ出サシメ左ノ如ク朱書シ一通ハ掛判事ノ檢印ヲ捺シ一件書類ヘ綴リ置一通ハ右判事ノ官印ヲ捺シ願人ヘ下付ス

願之趣允許スル者也

年月日　判事氏名之印

又ハ

願之趣難聽届候條更ニ他人ヲ改撰ノ上可願出モノ也

年月日　判事氏名之印

明治十五年十一月廿一日出版御届

定價四十錢

編輯兼出版人　岐阜縣平民　和田鶴太郎　芝新櫻田町十番地

發兌書肆

須原屋茂兵衛
山中市兵衛
丸屋善七
法木德兵衛
報告社
萬字堂
秩山堂
嚴々社
弘令社
博文堂
吉川半七
有隣堂
高崎修介
靜霞社
山田屋甚七
集精社
有則軒

府縣賣捌

横濱　石卷　勢州　美濃　大坂　千葉　金澤　名古屋　岡山　長野　土浦
伊勢梅　三陸屋　郁文舍　岡安慶助　岡島眞七　立眞社　雲根堂　石版社　津田源兵衛　岩下伴五郎　柳且堂

都文堂

中島信行君解 **刑法講解** 既發兌 定價八十錢

治罪法講解 逐次出版 定價八十錢

右第一ニ法文ノ字義ヲ解シ第二ニ法理ノアル處ヲ講シ第三ニ參考ヲ示シテ立法官ノ意向ヲ說キ第四ニ例喩ヲ設ケテ裁判適用ノ法ヲ議シ第五ニ新法頒布以來刑事ニ關スル布告布達ヲ掲ケテ實施ノ用ニ供シ第六ニ刑法治罪法一覽表ヲ掲ケ繙覽ヲ便ニス其講解ノ簡ニシテ至リ盡セルモノ此書ヲ以テ最上無比ト稱スヘシ

○改定 **監獄則** 正價金十錢 郵稅二錢

右書ハ法律學士ノ必用ナル事兼テ諸君ノ知ル處ナリ

○國權奮起 **政論軌範** 全一冊 價四十五錢

右ハ國權ヲ目的トシテ內外各國諸大家ノ討論演舌ヲ輯錄シ論說ノ是非ヲ評論シ政理ノ要訣ヲ示シ論法ヲ譯シ演舌ノ本ツク處ヲ說出シ政治ニ關スル結構一トシテ漏ルヽ處ナシ苟モ我國政論演說ヲ以テ自ラ任スルノ士ハ此書ヲ措テ他ニ求ムル所ロ無ル可シ

陸軍中將鳥尾得庵居士著 中村敬宇南摩綱紀合評 **點註王法論** 市川榮山註解 定價五十五錢

改定 **裁判所管轄一覽** 定價七錢

陸軍刑法 正價七錢

司法省印藏版

佛國 **民法契約編** 第二回 **講義** 正價七十錢 郵稅廿四錢

司法省藏版 ボワソナート氏講 **性法講義** 正價四十五錢 郵稅十八錢

司法省藏版 同氏講 佛國 **治罪法講義** 正價四十五錢 郵稅十八錢

仝 同氏講 佛國 **刑法講義** 同

仝 同氏講 佛國 **訴訟法講義** 同

仝 同氏講 本國 **商法講義** 正價五十錢 郵稅二十錢

佛國 **民法** 財產篇 **講義** 正價十八錢 郵稅四錢

佛國 **民法** 期滿得免篇 **講義** 正價九錢 郵稅二錢

法律大意講義 正價九錢 郵稅二錢

証據論拔萃 正價廿五錢 郵稅八錢

佛國法律書 上卷 正價五十錢 下卷 正價八十錢 郵稅五十八錢

磯部四郎解

日本 **治罪法詳解** 正價壹圓五十錢 郵稅卅四錢

大野堯運解

日本 **刑法要覽** 正價五十二錢 郵稅二十錢

小笠原美治解

日本刑法治罪法 **註綿** 正定四十錢 郵稅十六錢

現民事行刑事 **訴訟手讀** 正價四十錢 郵稅十四錢

現行 **罰則法典** 正價廿五錢 郵稅十四錢

通俗 **刑法治罪法** 正價四十錢 郵稅十六錢

中村欽吉郎著

法律要論 全十冊同三篇迄出版 壹冊十錢宛

右ハ性法即チ天然法ヨリ論來リ成文律ニ至リ權利義務ノ生スル原因及ヒ其目的効果一トシテ詳論妙喻セサルナシ實ニ民法論ノ魁首ト稱ス可シ

刑法治罪法 **合卷** 正價十六錢 郵稅四錢

民法釋義 全 正價七十五錢 郵稅廿四錢

池上三郎篇纂

刑法對照 西洋綴大本全一冊 定價金壹圓廿五錢

池上三郎閲只野龍二郎著

實例引證 **治罪手續** 第一卷二卷出版 第三卷全備近刻

時習社發兌

法律雜誌 每月六回出版一部四錢 五厘十部前金四十錢

高木豐三解

刑法義 全一冊 定價四圓三十錢

法律志叢 每月五回出版 一部定價五錢

三坂繁人著

日本刑法詳說 每月一冊出版 全部卅冊

一冊定價十五錢全部前金二圓六十錢郵稅一部一錢

池上三郎閲只野龍二郎著

治罪法 **區戸長必讀** 全一冊廿五錢 各地郵稅六錢

末廣重泰序堀口升校閲

黑岩大譯 **雄辨美辭法** 全一冊定價六十錢

久松義典譯 泰西 **雄辨大家集** 正篇五十一錢 後篇六十錢

三宅虎太纂輯

日本演舌軌範 定價五十錢

條約改正 **時事切要** 定價五十五錢

松嶋剛譯述

社會平權論 全六冊內一分四卷迄出版 價四部八十錢

林包明著丸善出版

社會哲學 定價壹圓二十錢

久我懋正篇 秩山堂出版

現今 **民權家品行錄** 壹二出版 價廿錢宛

法水書屋出版

名家演說大家集 定價六十錢

近古 **慷慨家列傳** 全三冊 近刻

右ハ佐久間象山吉田松陰浦生君平雲井龍雄平野二郎藤田東湖等維新前慨世愛國ノ士備サニ刻苦艱難ヲ嘗メ國家ヲ禆益セル事跡ヲ詳錄シ之ニ附加スルニ感慨及辭世ノ詩歌ヲ以テシ一讀心志ヲシテ悲憤ニ堪ユス鬼神ヲシテ其壯烈ニ悲泣セシム可キノ良書ニシテ當時愛國ノ士苟モ世故ニ通達シ將來ニ爲スヿ有ソトスル者此書ヲ措テ而ノ何處ニ求メントスル乎

論士必携 定價十五錢

山陽言行錄 象山言行錄 **合卷** 定價四十錢

久松義典譯

泰西革命史鑑 壹二出版 價六十錢

○**鷗盟詩文** 第一集既刻第二集近刻唐本仕立入社費毎月府內十五錢府外十七錢

右社員ヲ天下ニ募リ社員ノ投寄セル詩文ヲ批評添削シテ毎月一回又ハ二回發兌シ社員ヘハ本社ヨリ送付シ社員外ヘハ發兌書肆ヨリ賣捌ヲ爲ス請フ續々入社又ハ御注文アレ 入社之赴ハ本集卷末ニ社則ヲ掲ケ有之候ニ付直チニ本社ヘ申込アレ

東京芝區南佐久間町壹丁目二番地

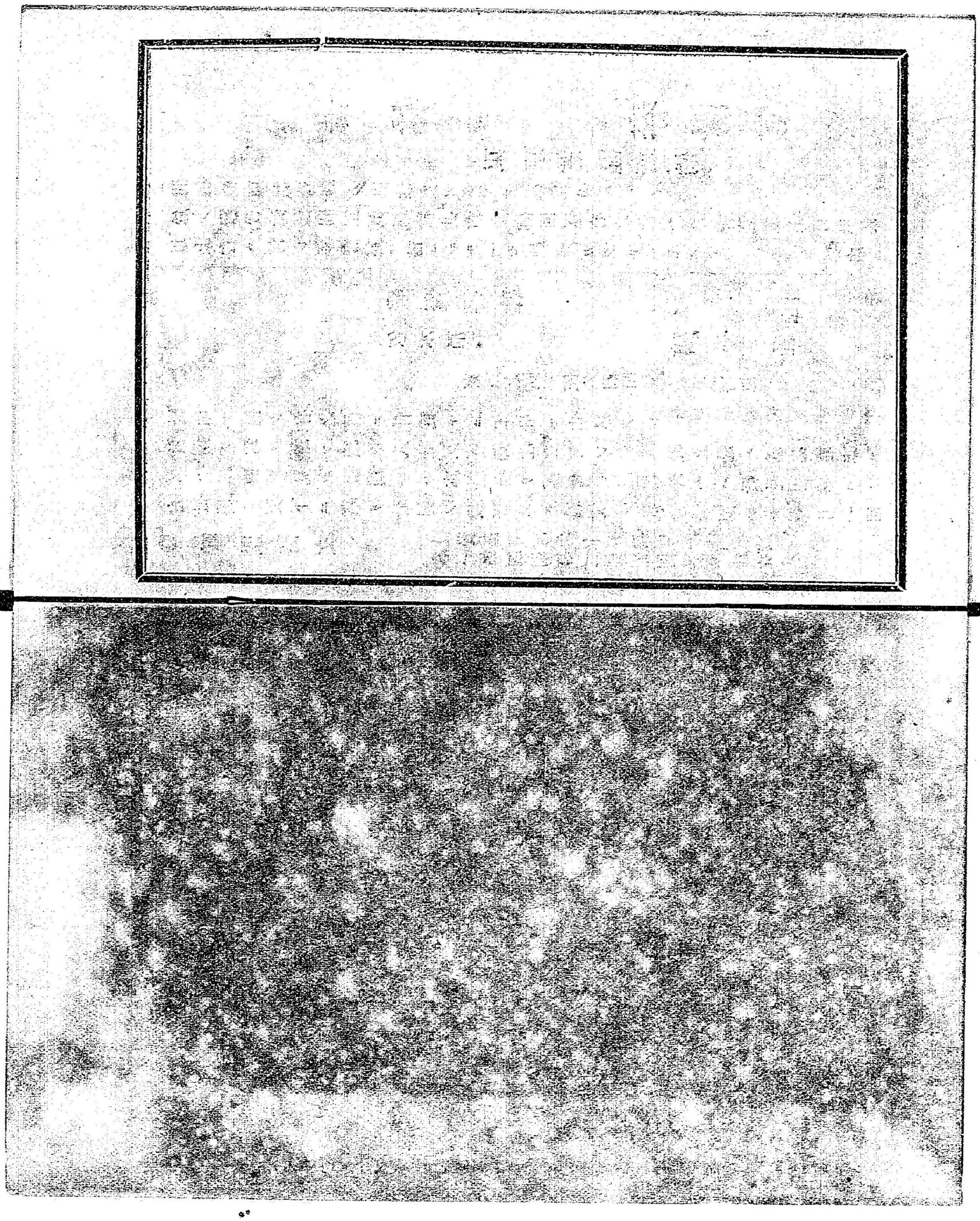
鷗盟社

仮本局

發賣書肆 春陽堂 府縣書林

以上右ハ何レモ有益ノ書ニシテ一モ缺ヘカラサルモノナレハ幸ヒ弊店ニ於テ發賣致候間正價郵税共前金御回送有之候ヘシ神速差上可申候間御愛顧諸彦續々御注文アランヲ冀望ス

書林 東京芝區新橋 **春陽堂**



東京圖書館

函 八四	門 新
架 四	部 十克
號	類